



イ

i

n

n

o

サ

n

vol. 7

Sakamoto Shin'ichi

坂本真一

出典: 安達正勝「死刑執行人サンソン」

★この作品は、デジタル配信用に再編集を行ったものです。

# イノセント

vol.7



## 坂本眞一

Sakamoto Shin'ichi

出典: 安達正勝『死刑執行人サンゾン』





i n n o c e n t

vol. 7

## ピカレスクの娘<sup>むすめ</sup>

Fille de picaresque.

サンソン家が王家と交わる「真紅のベルサイユ」編——。  
ベルサイユ宮殿で処刑職に就いた妹マリー・ジョセフと、  
幼き「ルイ16世」に崇められ、宮殿に招かれる兄シャルル。  
妹と仲違<sup>ななご</sup>うシャルルを、権力の中核で、野心<sup>やん</sup>が襲<sup>おそ</sup>いかかる。  
その時、純真<sup>じゆんしん</sup>なる者は、生き延びることができるとか——!?

Ce volume 7 contient les épisodes numéro 65 à 75.

◎この作品は、歴史上の人物・団体についての取材を基に、一部脚色して構成したものです。

# パリの死刑執行人サンソン家系譜

## 初代

シャルル・サンソン・ド・ロンヴァル

1635 - 1707

死刑執行人の娘と恋に堕ち、  
死刑執行人となる

マルグリット・ジュアンヌ

- 1681

ルイ13世治下ディエップの死刑執行人の娘

## 二代目

シャルル

1681 - 1726

アンヌ・マルト

初代の二番目の妻の妹

アンヌ・ルネ

1710 - ?

ソワッソンの死刑執行人  
クレチアン・ゼルと結婚

マドレーヌ

1719? - 1740?

マドレーヌ・クロード・  
ガブリエル

1738? - 1779?

後にムランの死刑執行人  
ピエール・エリソンと結婚



## 三代目

シャルル・ジャン・  
バチスト

1719 - 1778

療養のため別居

ニコラ・シャルル・  
ガブリエル

1721 - 1795

ジャンヌ・ガブリエル

父親はトウレーヌの  
死刑執行人



## 四代目

シャルル・アンリ・サンソン

1739 - 1806

サンソン家当主。四代目“ムッシュ・ド・パリ”



マリー・ジョセフ

1751 - 1813

ベルサイユ宮廷司法官直属の死刑執行人  
“プレヴォテ・ド・ロテル”

ルイ・シャルル・  
マルタン

1744 - 1817

後のトゥール及び  
オーセールの死刑執行人

ニコラ・シャルル・  
ガブリエル

1745 - 1800

後のプロアの死刑執行人

ルイ・シル・  
シャルルマーニュ

1748 - 1794

後のプロヴァンの死刑執行人

ピエール・  
シャンクス

1753 - ?

# Histoire jusqu'à present.

これまでの物語

「正義の番人であり、死神」。フランス史上、最も壮絶な死刑執行人一族・サンソン一族で、兄妹喧嘩が勃発…!!!

発端は兄シャルルが、お針子マリー・ジャンヌ・ベキュールと一夜を共にしたこと。男としての快楽に目覚めたシャルルは、家長としての気力と自信を漲らせる。一方、妹マリー・ジョセフは変貌を遂げる兄に不快な気持ちを抱いていた。その最中、サンソン家に新たな死刑執行命令が下る。意気揚々と処刑に臨もうとするマリー。だがシャルルは、処刑台で奔放に振る舞うマリーが一族に災厄を齎す危険を指摘し、任務を取り上げる。シャルルは抵抗するマリーを監禁してしまふ…。

だが、マリーは決して我儘に振る舞うのみではなかった。マリーが素直に拘束されたのは、助手アンドレへの優しさだった。アンドレによって解放されたマリー。ラトゥールを魅了することで死刑執行の任務を取り返す。しかし、この処刑の方法はオルレアン公ルイー・フィリップより下された、前代未聞の「立ったままの斬首」、「立像斬首」——。誰もが血の海になる処刑台を思い戦慄した。

処刑の刻が来る。処刑台で死刑囚ラトゥールは慄き、立つことさえ



マリー-アントワネット

14歳でルイ・オーギュストに嫁ぐ



できない。しかし、マリーは自らの唇を与え、氣力を賦活させることで、立ち上がらせた。その刹那、一閃。ラトゥールは斬首終了に気づくこともなく、頭を胴体から落とした——。処刑は成功、だが、シャルは死に行く者の心を弄んだと叱責する。マリーは女である己を死刑執行人に推したかつての兄と別れを告げる。「信じる道は胸に刻まれた真紅き宿命のみ……!!!」——野心、相克、死……、人の営みの渦が流れ込む処刑台で、兄と妹は絆を見出し、成長と共にここで決別する……。

1年後、森で狩りに興じるシャルの姿があった。一族の当主として自信に満ち、伴侶とすべき女性との新たな恋に燃えていた。そんなシャルを試すかのような事件が起きる。それは、幼き「ルイ16世」ベリー公ルイ・オーギュストとの遭遇。死に憧れるオーギュストはシャルを冥府へと誘う。神々として崇拜する。シャルはオーギュストから、ベルサイユ宮殿の大宴会に招かれる。貴族を象徴する色である「青」の上衣を纏い、颯爽と現れた。だが、宮殿に渦巻く野心がシャルをつけ狙う……!?そして、ベルサイユで処刑職に就く妹マリー・ジョセフの姿も！主役たちが舞台に集い、血を巡る革命の物語は加速する——!!!



アンドレ・ルグリ  
元サンソン家助手



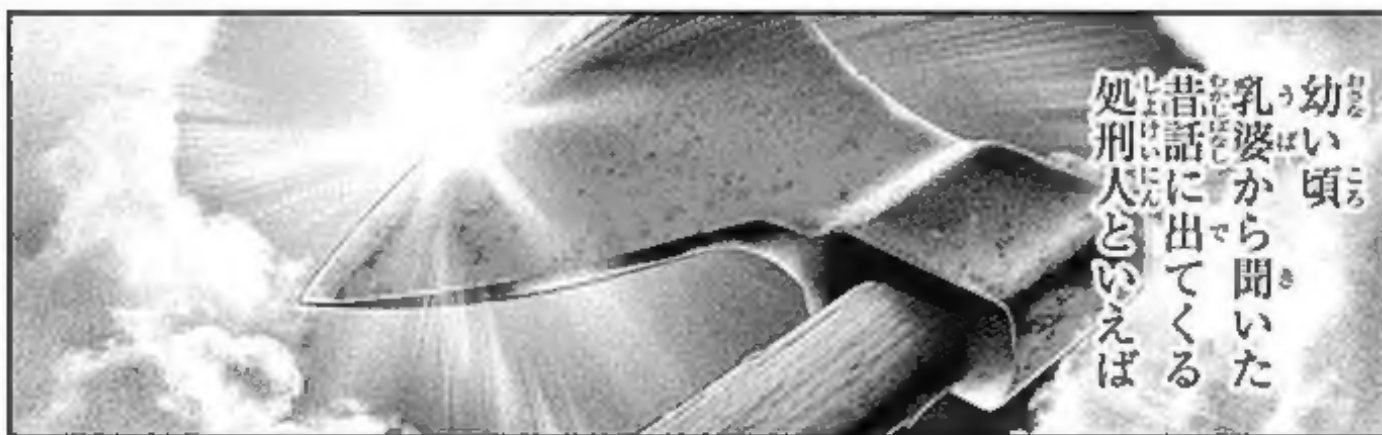
オルレアン公ルイ・フィリップ  
王位を狙う大貴族



ベリー公ルイ・オーギュスト  
後の「ルイ16世」









全身は毛むくじらの  
熊のような  
太男で







僕を見つめる  
黒曜石の瞳は

濡れたように  
輝いていた



白く長い  
華奢な指先は

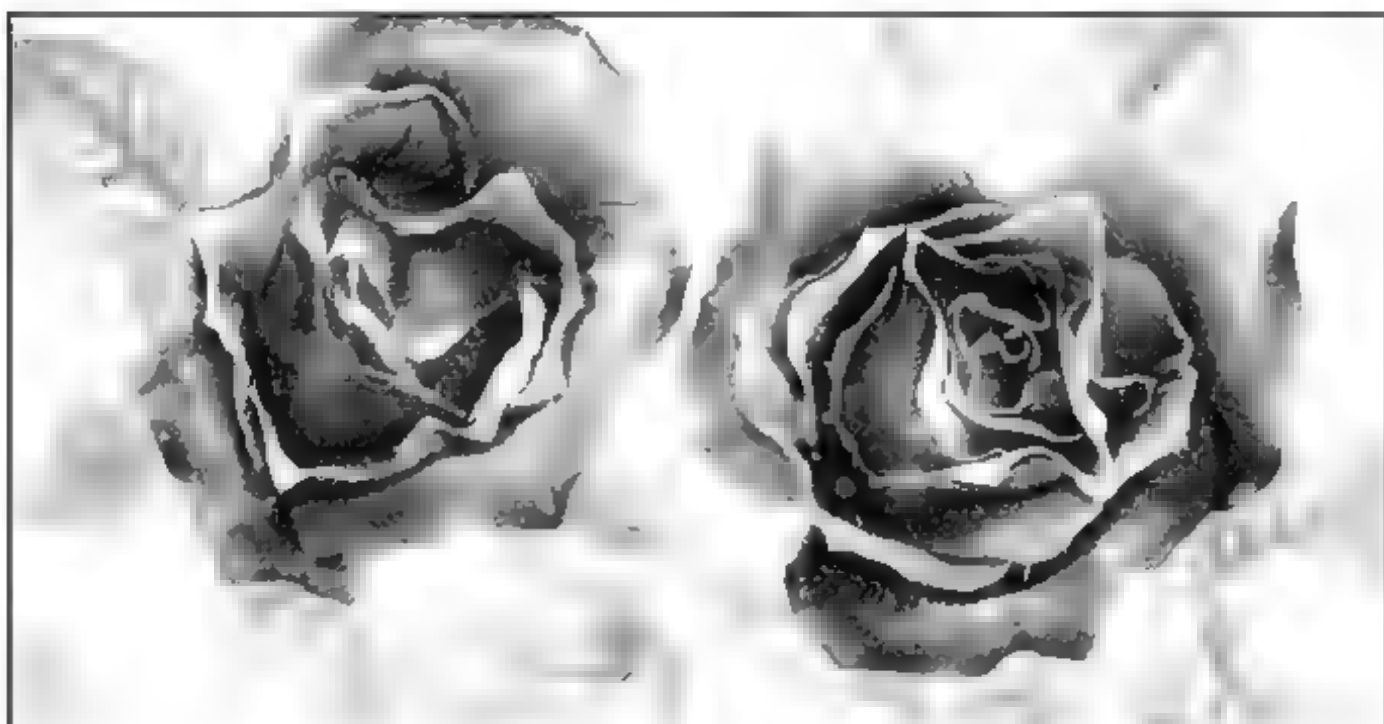
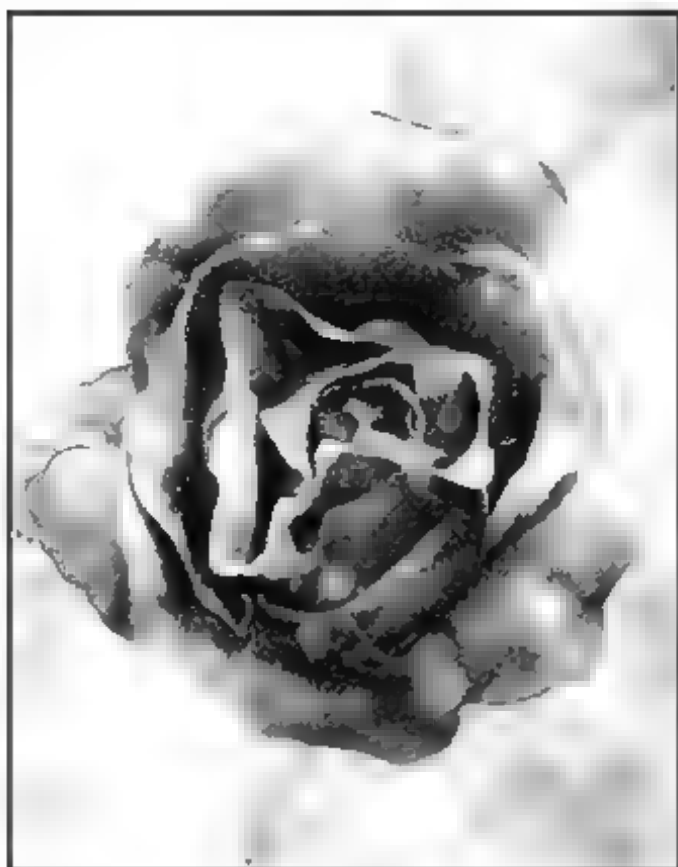
僕の頬に  
優しく触れ



豊かに  
流れ落ちる黒髪が  
揺れる度に

バラの香りが  
僕を  
優しく包んだ





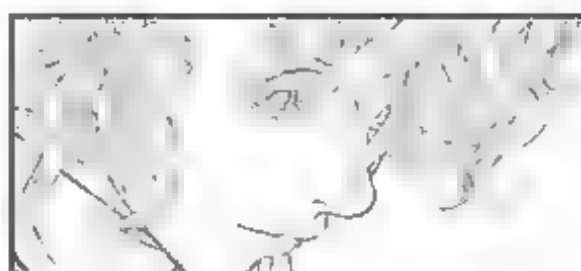
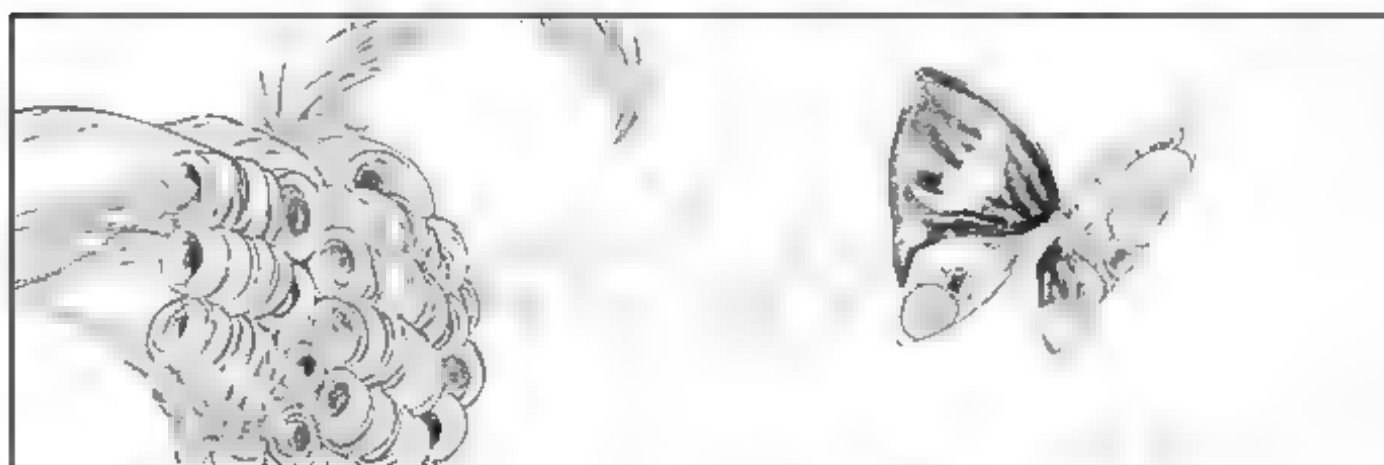
A black and white illustration featuring several roses in various stages of bloom. Long, dark, swirling lines, resembling smoke or stylized hair, flow across the composition, particularly concentrated on the left side. The background is light and textured.

ムッシュ・ド・パリ

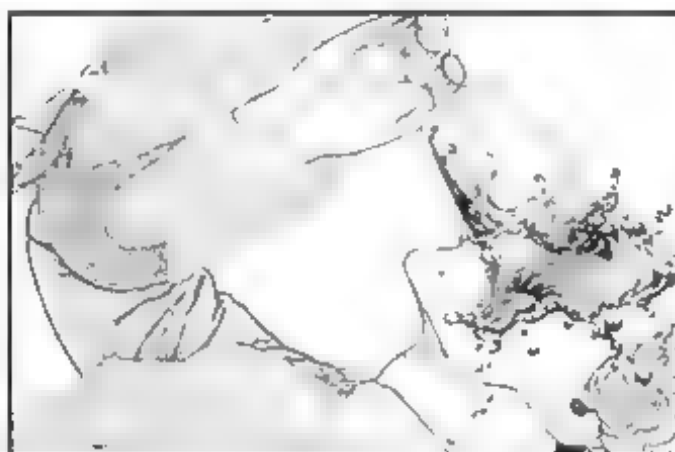
シャルル・アンリ・サンソンは

n°65 美<sup>し</sup>き死<sup>し</sup>刑<sup>けい</sup>執<sup>しゅ</sup>行<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>





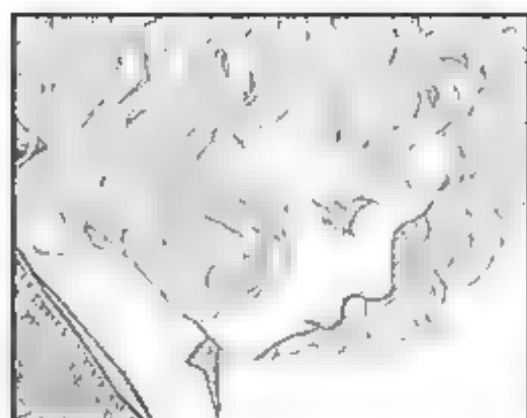




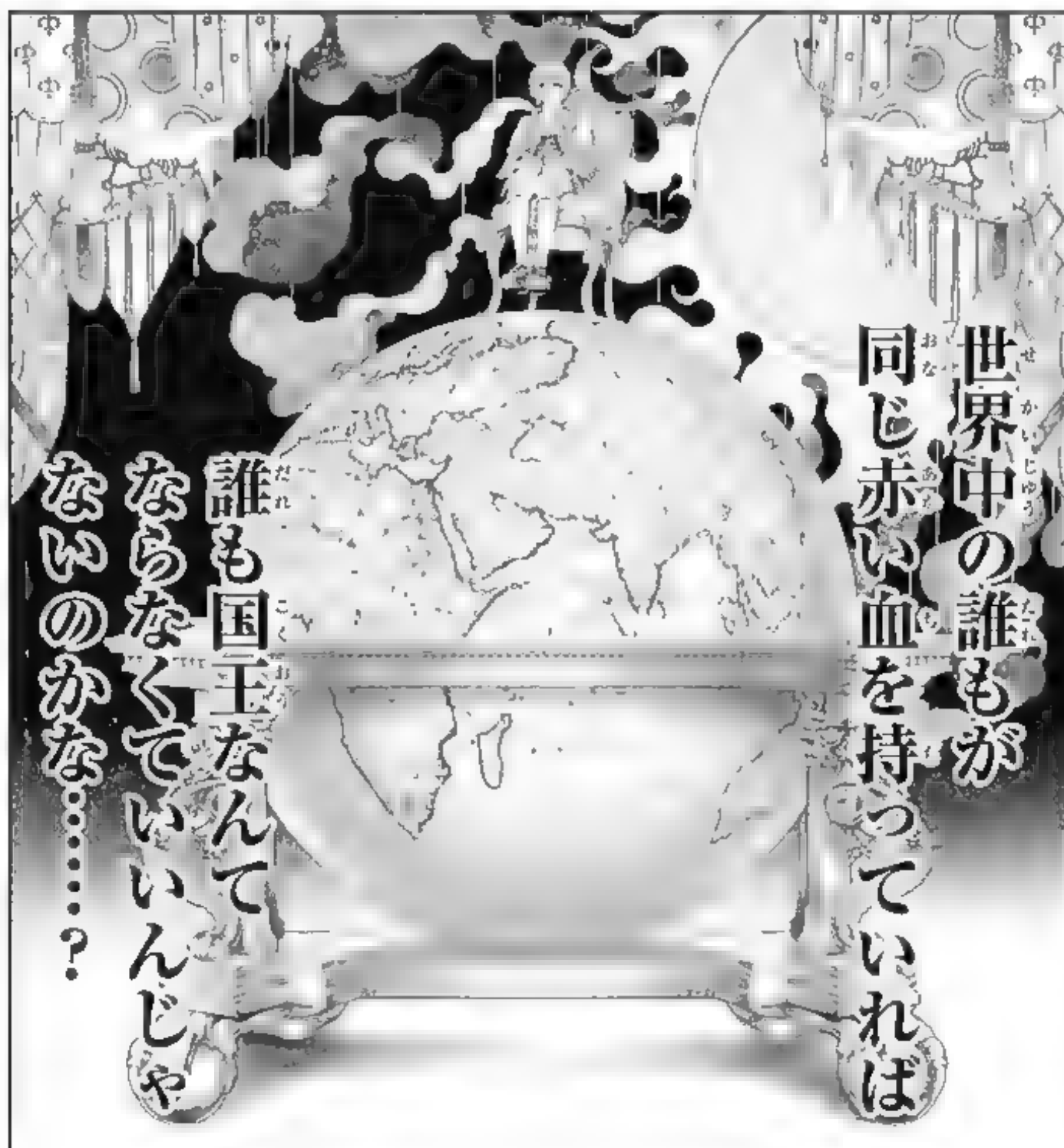
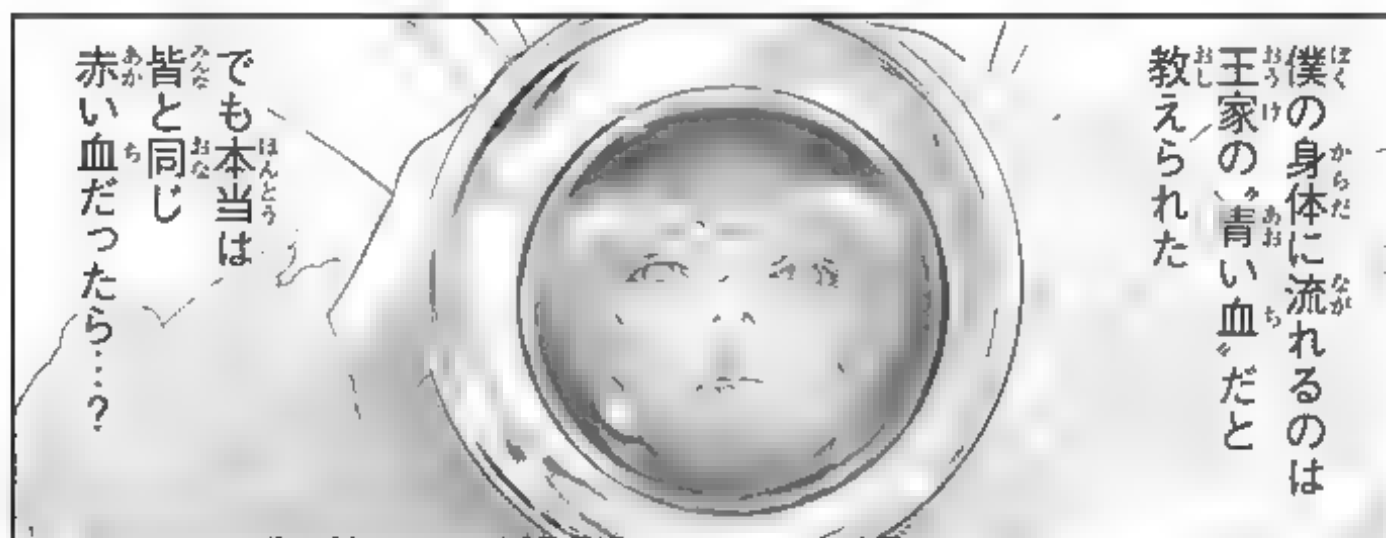


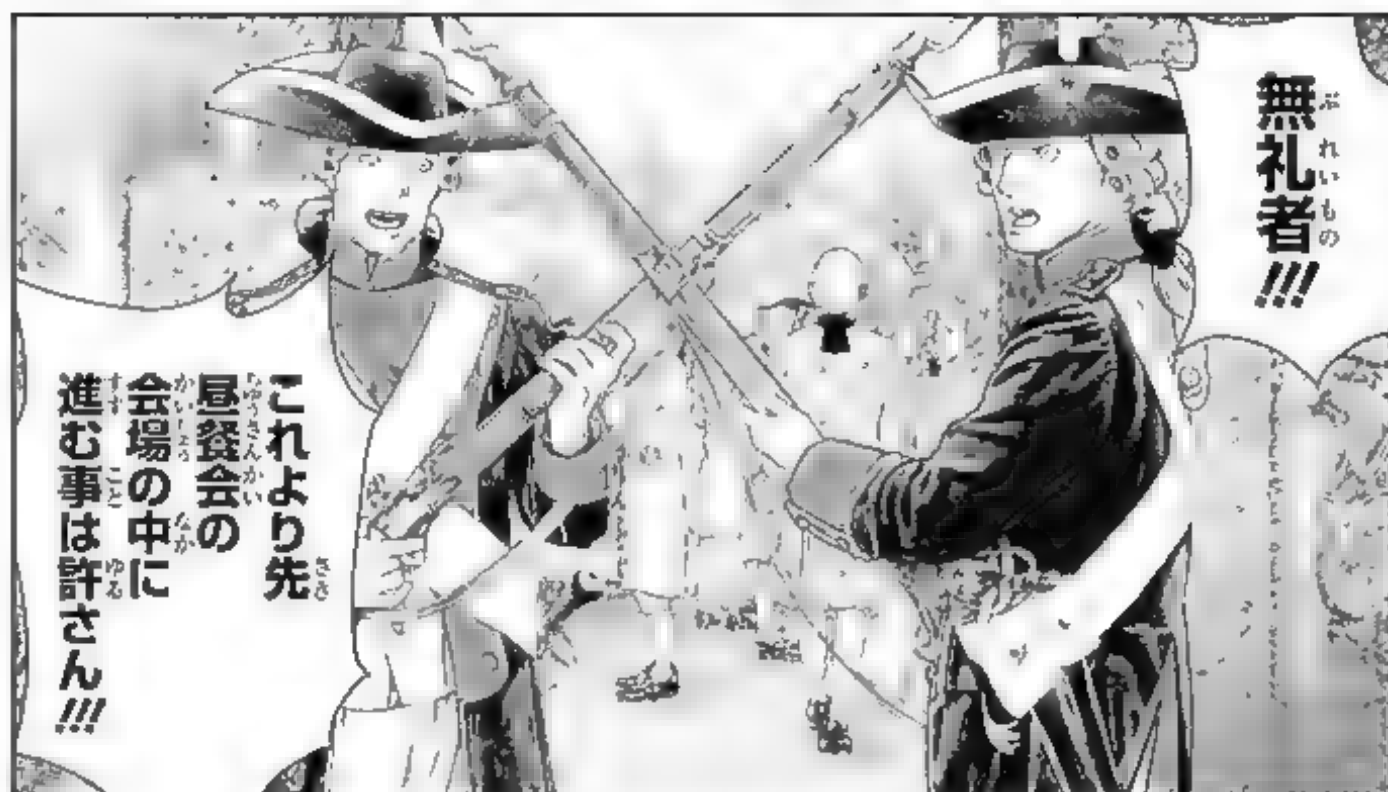


背中が  
こそばゆいん  
だ

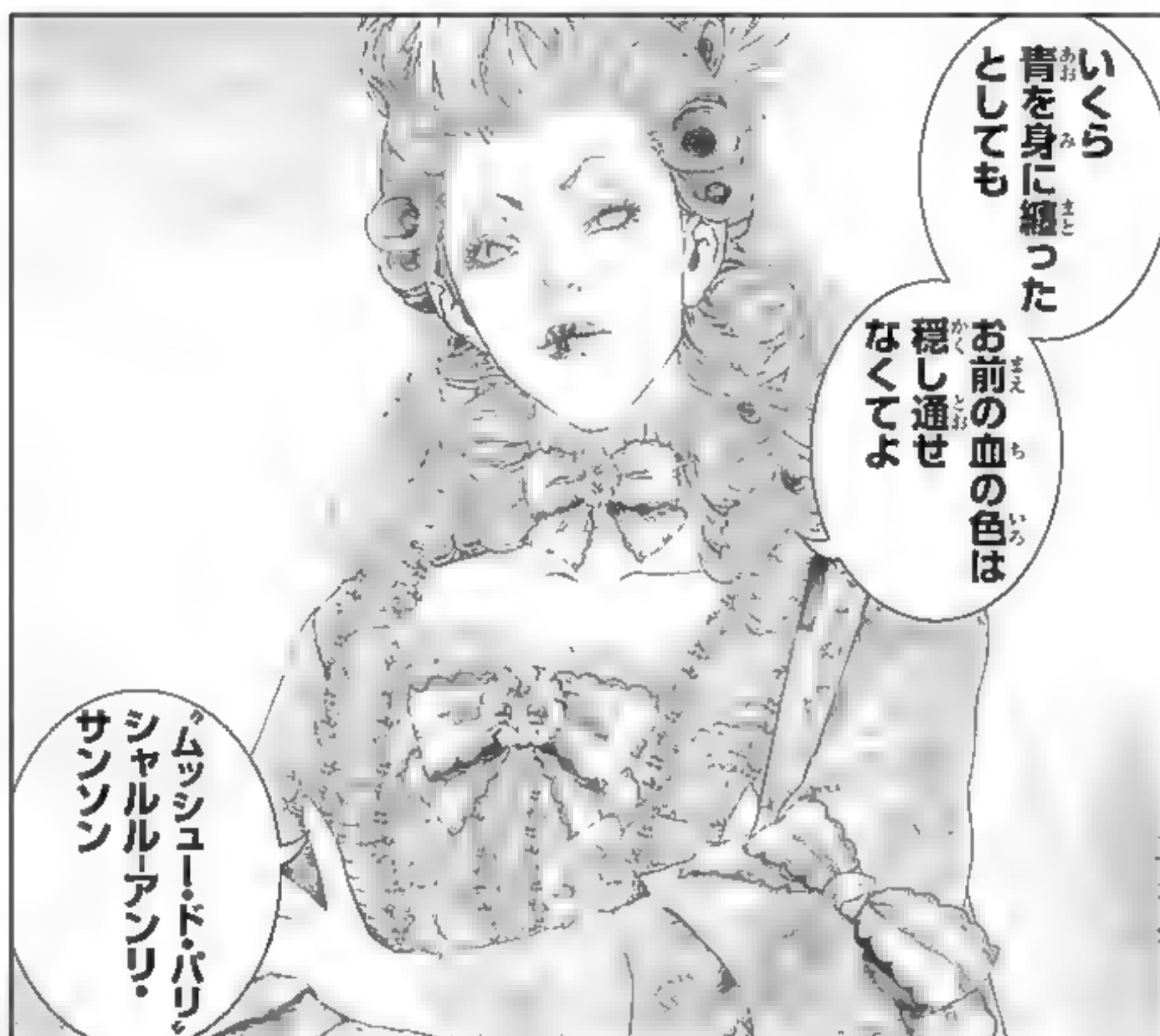










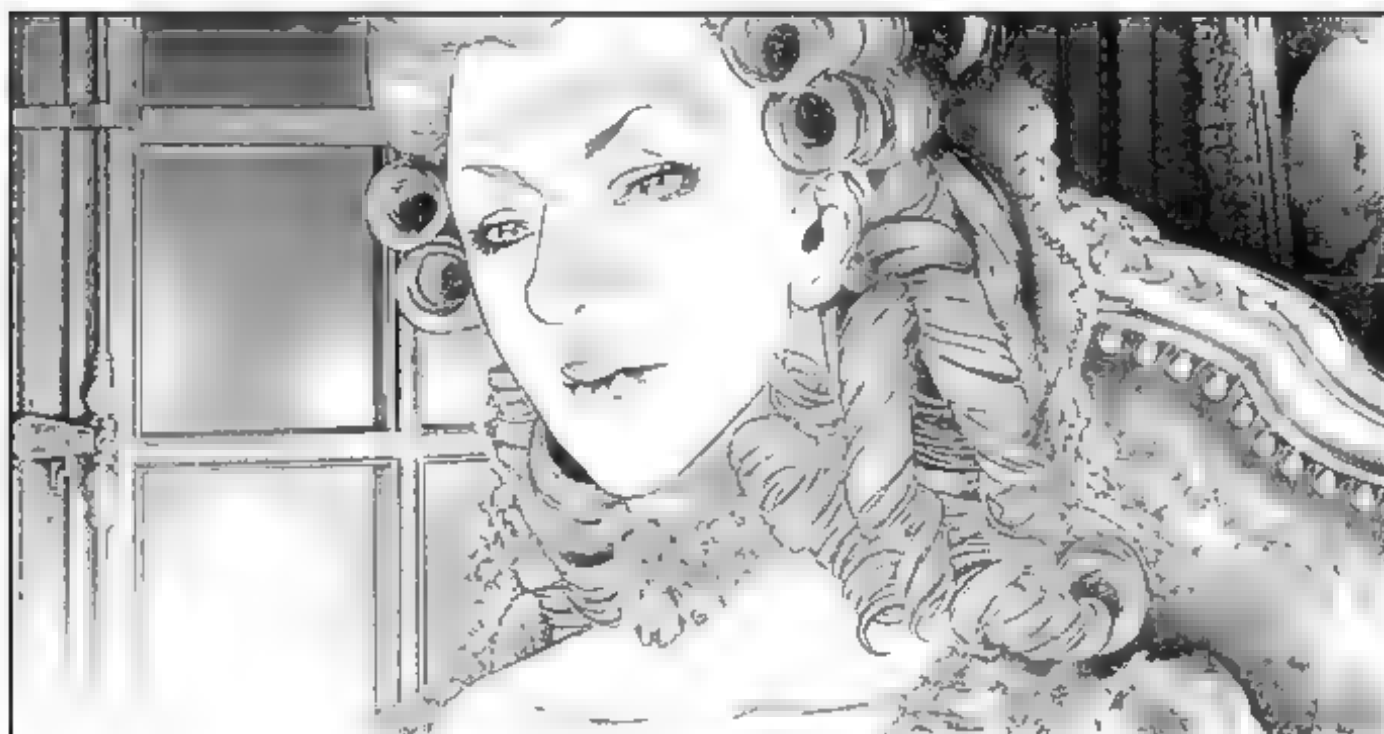
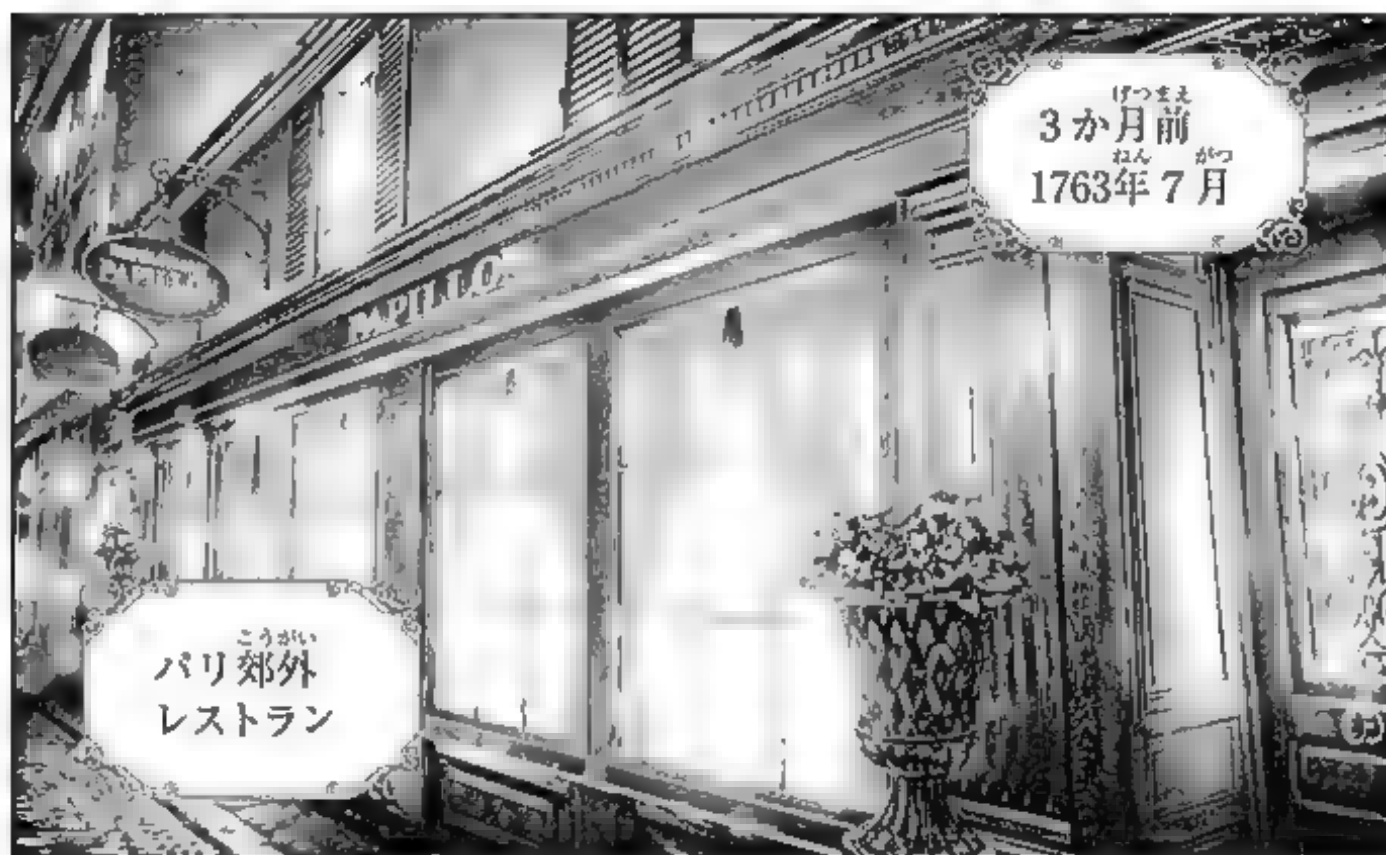






シャルル・ランリ・サンソンは  
首に綱を巻いて  
悔恨を表し私に謝罪し

今後は死刑執行人と誰にでも  
すぐわかる印を衣服及び馬車に  
つける事を要求致します!!!





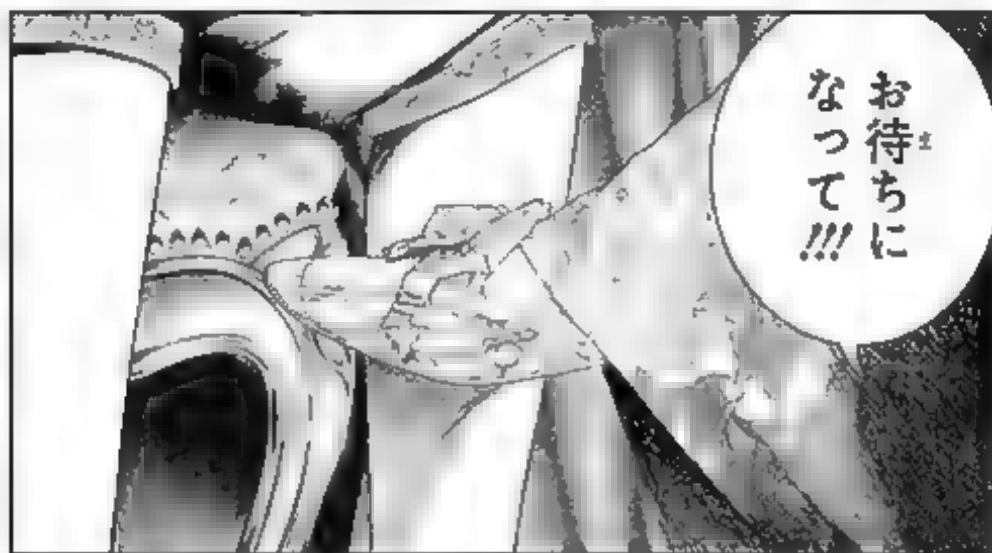
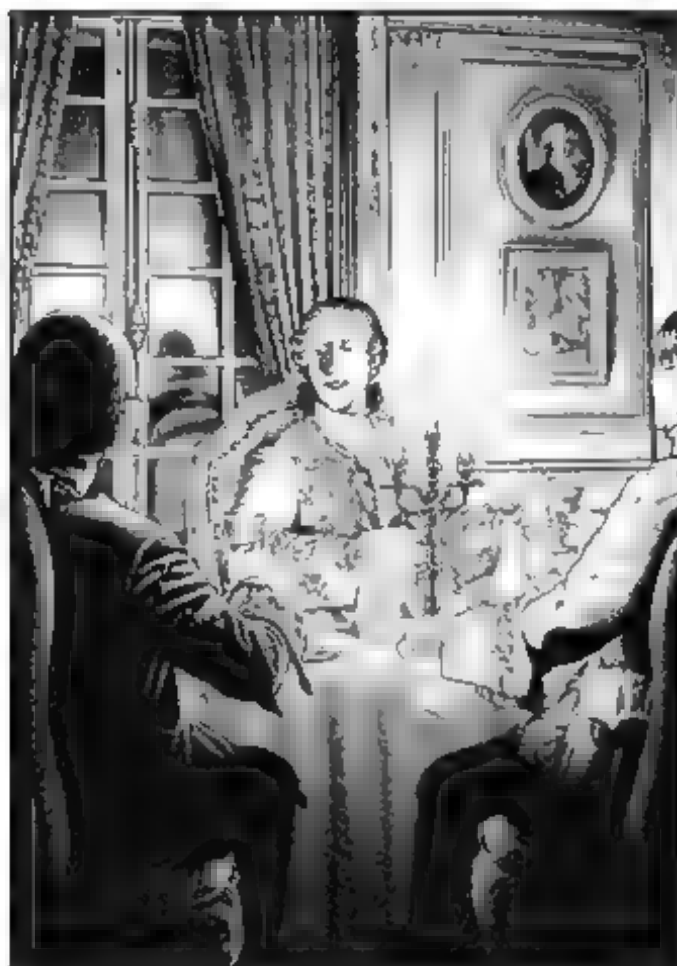
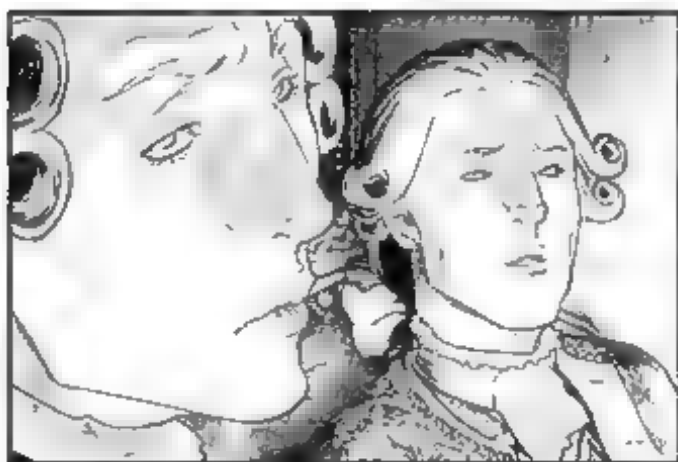
n°66 ある侯爵夫人の訴え

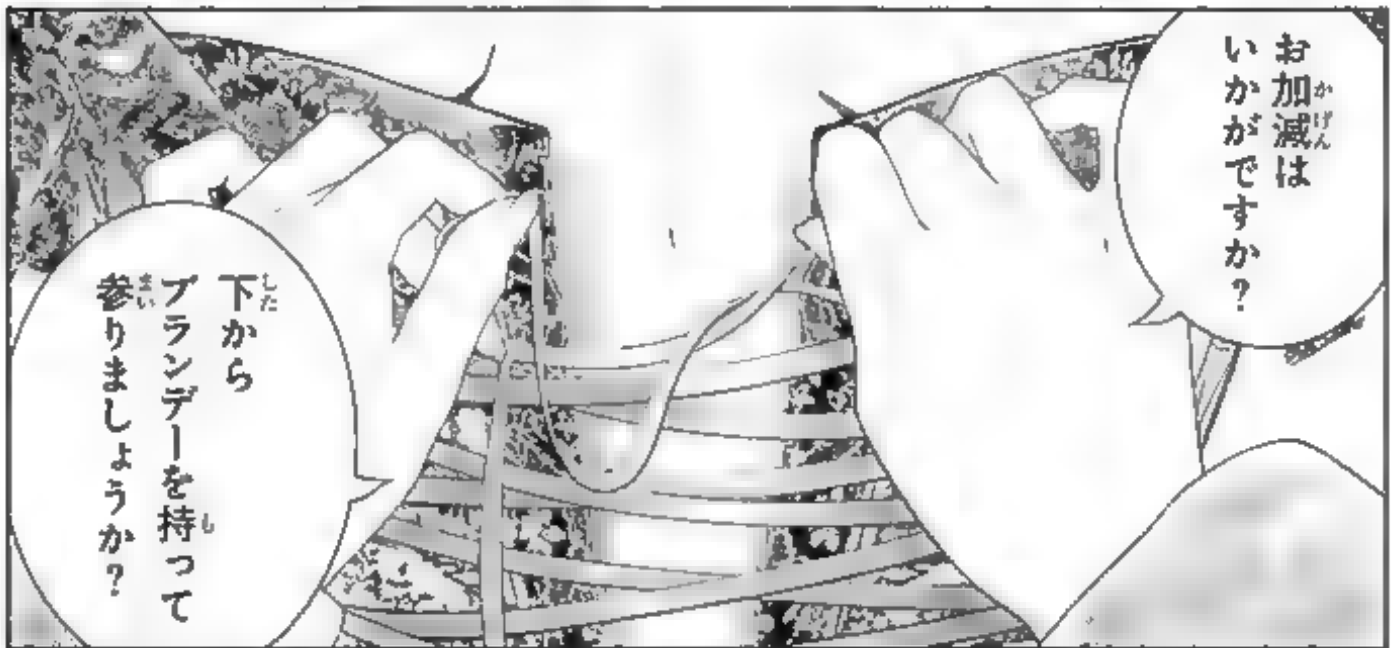













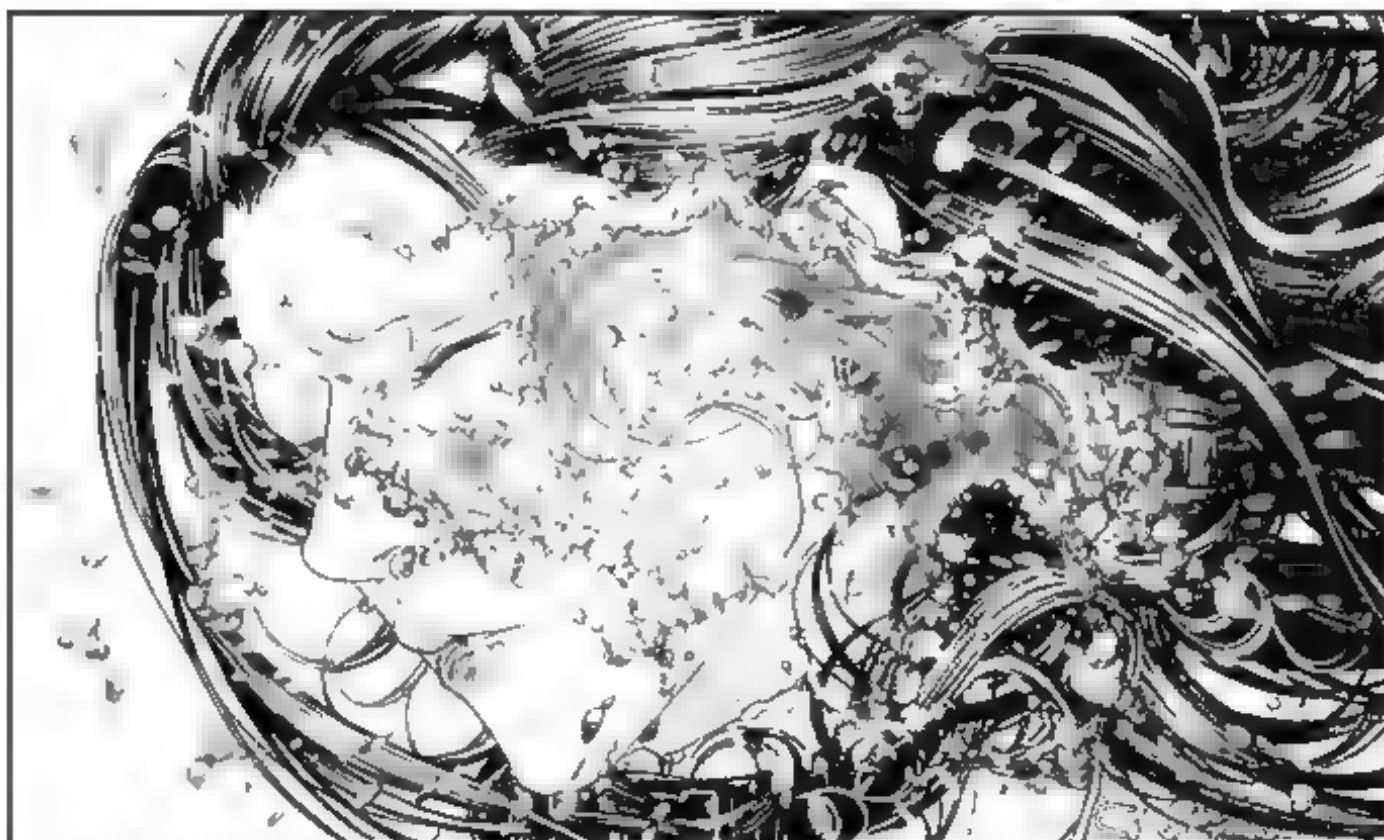


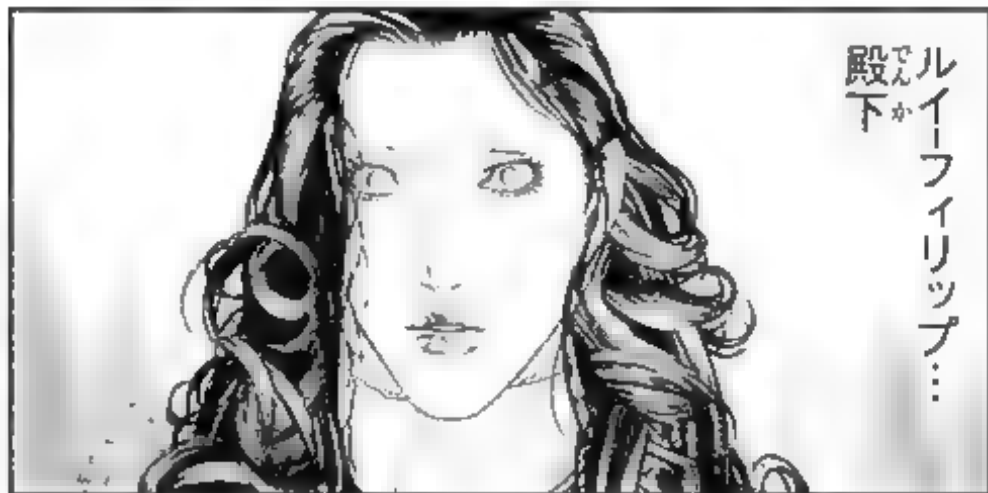
あなたが  
死神<sup>しにがみ</sup>でも  
悪魔<sup>あくま</sup>でも構<sup>かま</sup>わない

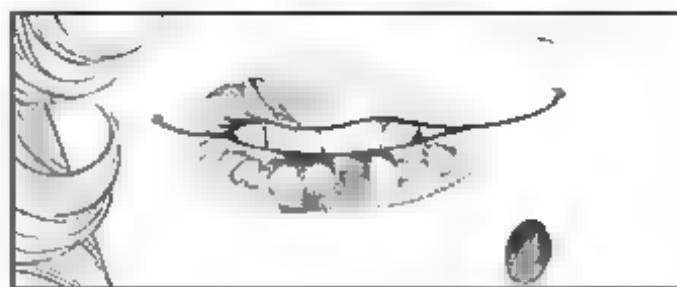
さあ早く<sup>はや</sup>  
2人<sup>ふたり</sup>で愉<sup>たの</sup>しみ  
ましょう

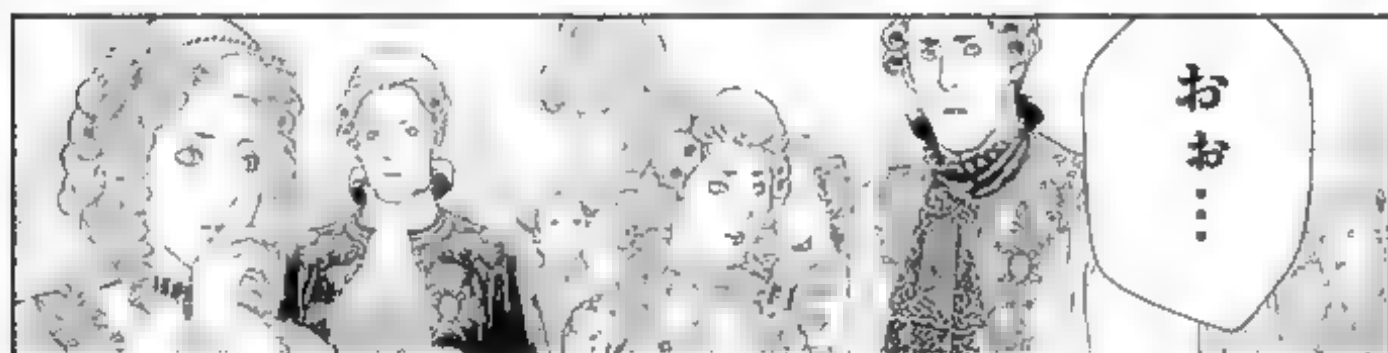




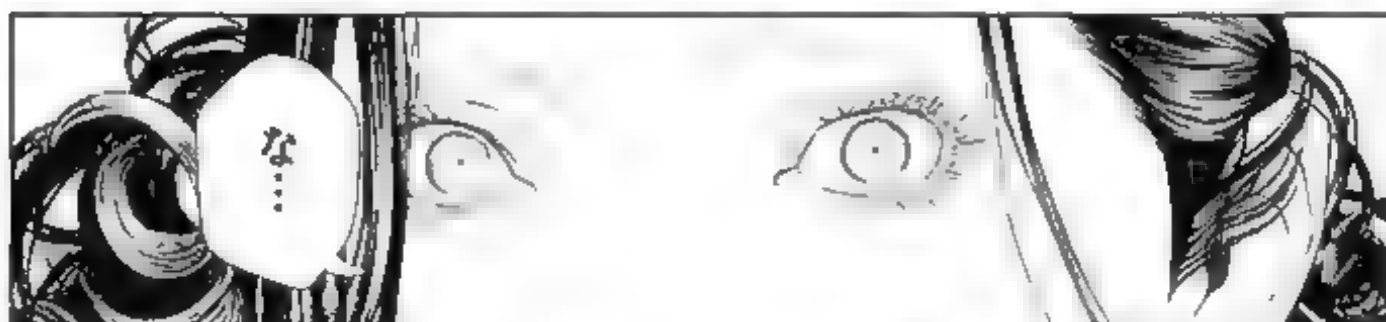
















マリー……!!!



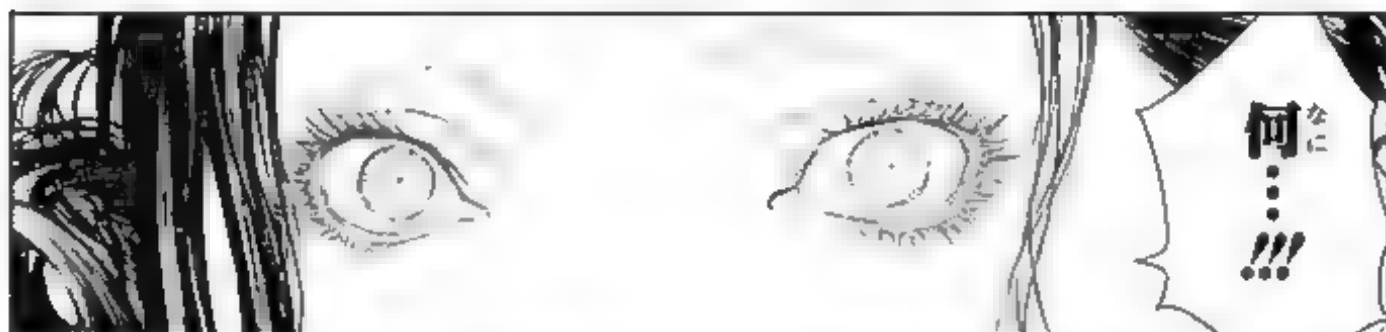
マルレ  
侯爵夫人の  
訴えにより

これより  
国王陛下の御前にて  
公開裁判を  
執り行う……!!!



幸いにも  
今日は  
司法長官閣下

高等法院  
裁判官閣下も  
昼餐会に  
御臨席されている



何……!!!



痛っ……!!!?

シャルル・アンリ！  
サンソン殿<sup>どの</sup>

ベルサイユ宮殿の  
軍警備を司る  
グレヴォテ・ド・  
ロテル<sup>さん</sup>として  
お前を拘束する!!!

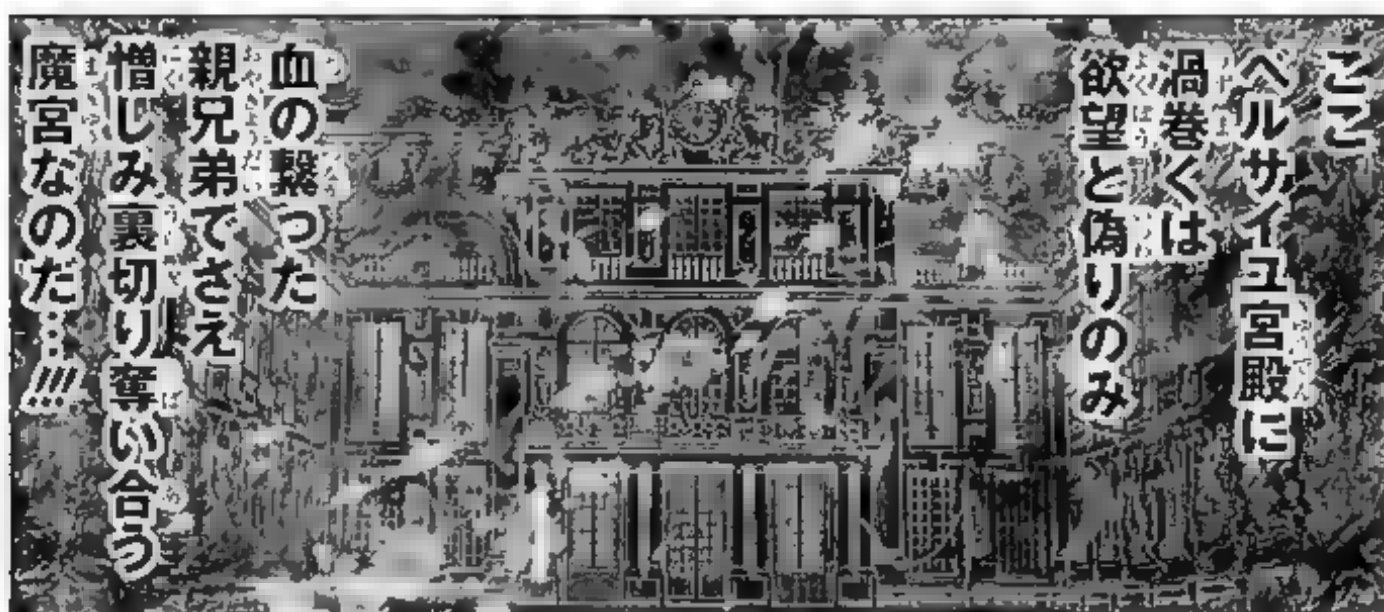


抵抗すれば  
殺す…



美しい処刑人  
シャルル・アンリ  
サンソン  
お前を味わう前に  
失うのは残念だが

これも全てあの愚鈍な  
ルイ・オーギュストを陥れ  
王位継承権第2位に  
踊り出る為の  
筋書きなのだよ



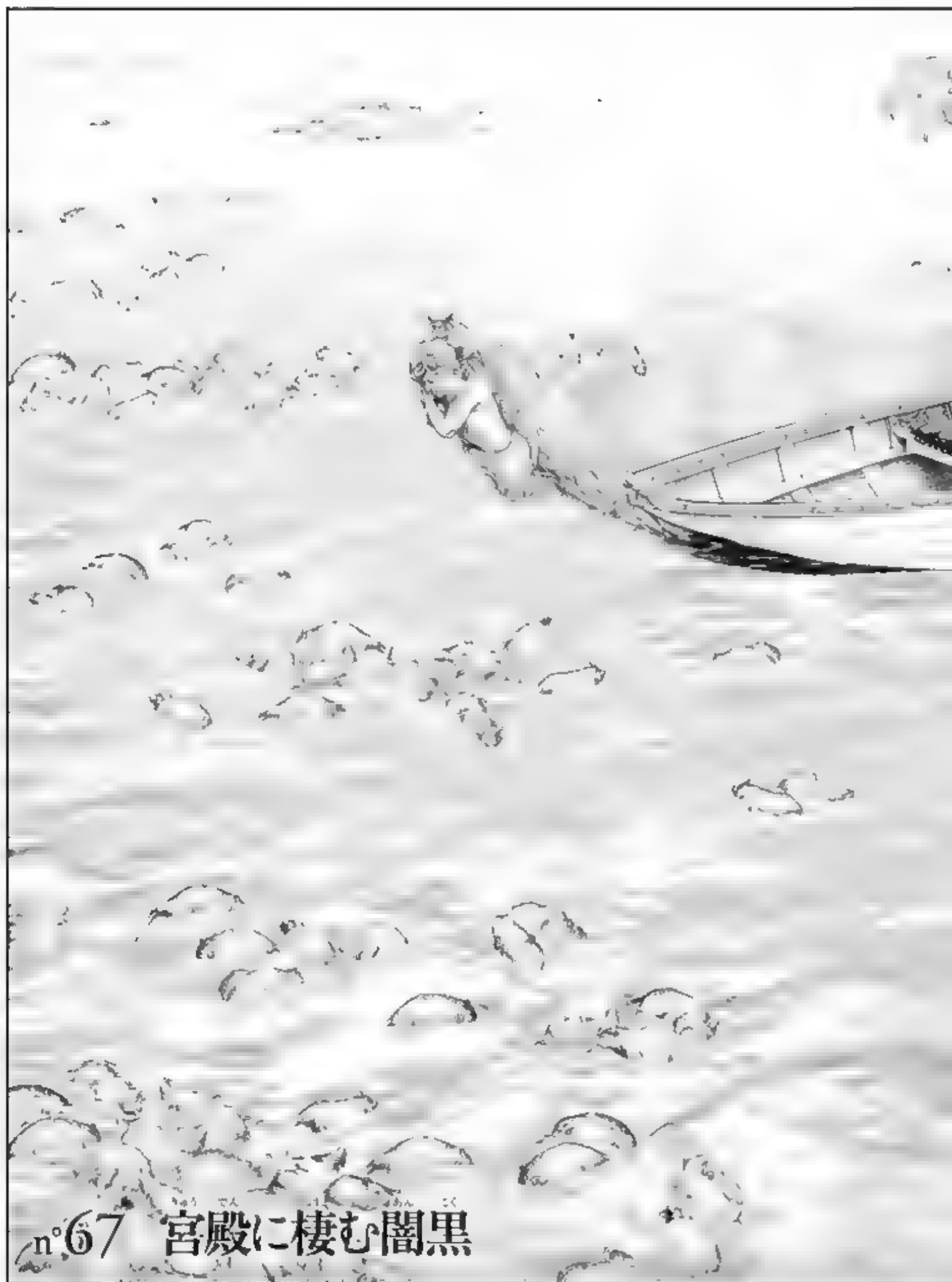
ここ  
ヘルサイユ宮殿に  
渦巻くは  
欲望と偽りのみ

血の繋がった  
親兄弟でさえ  
憎しみ裏切り奪い合う  
魔宮なのだ…!!!

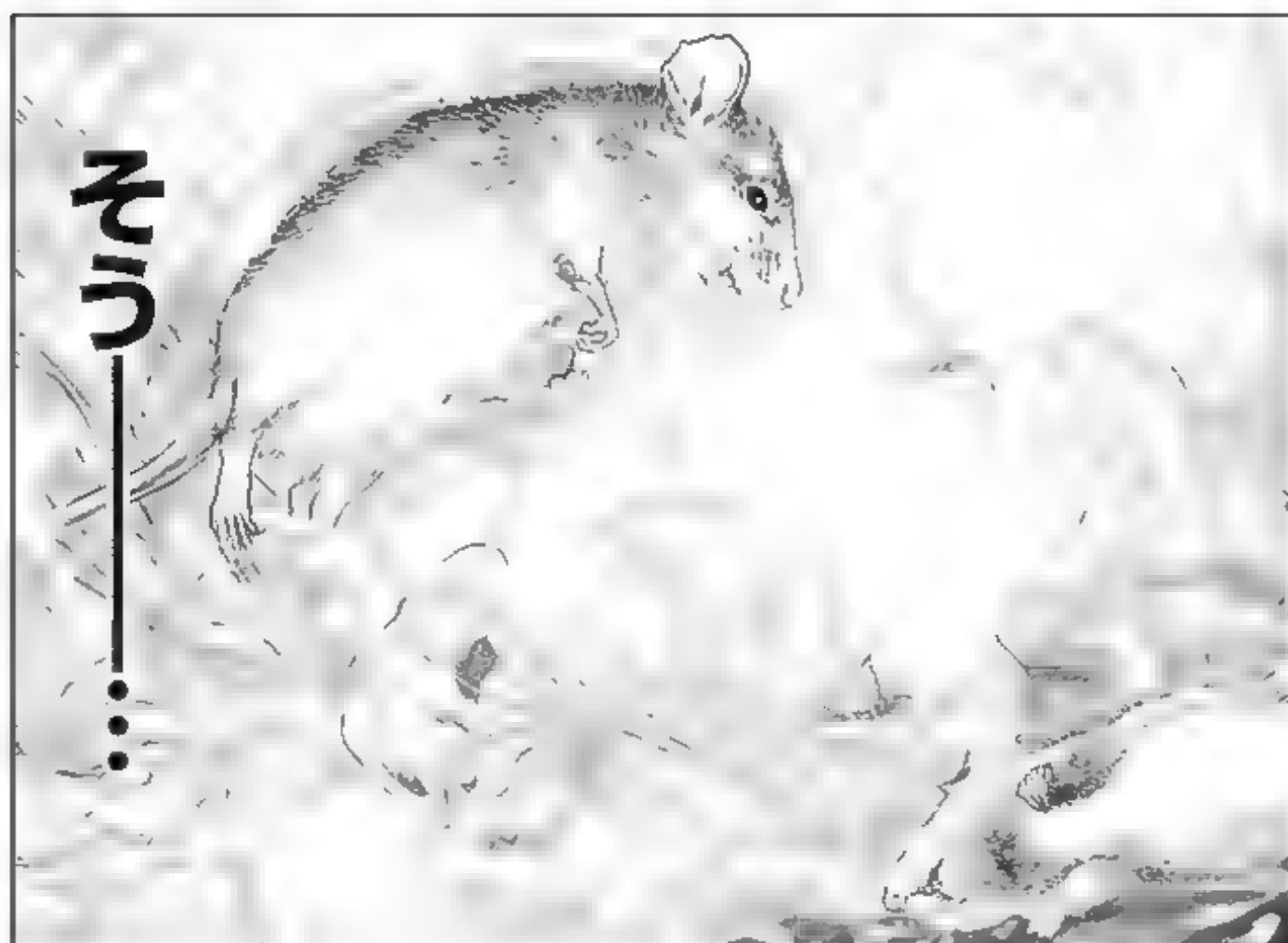
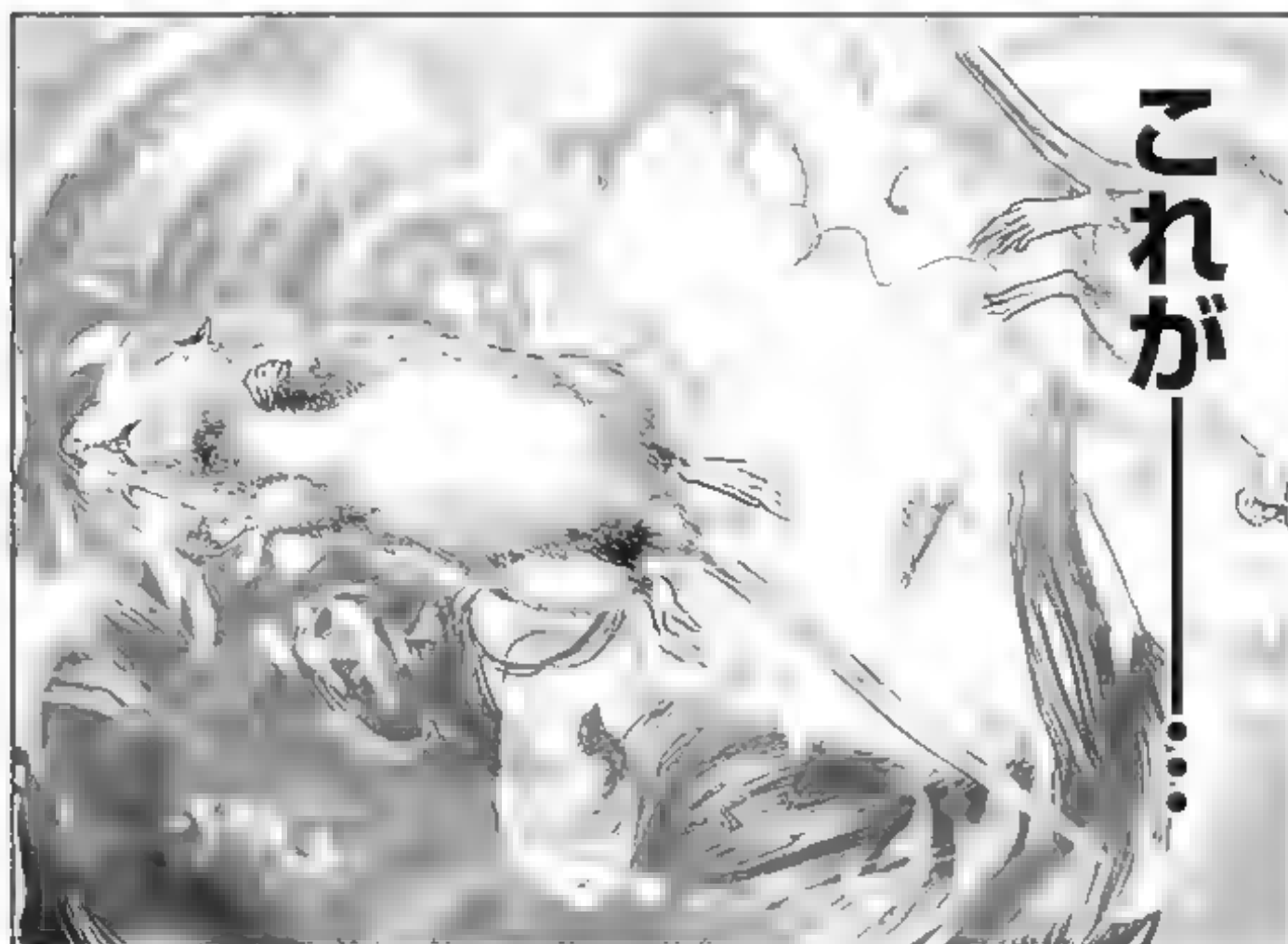








n°67 宮殿に棲む闇黒









実は  
ポンパドール  
夫人が…



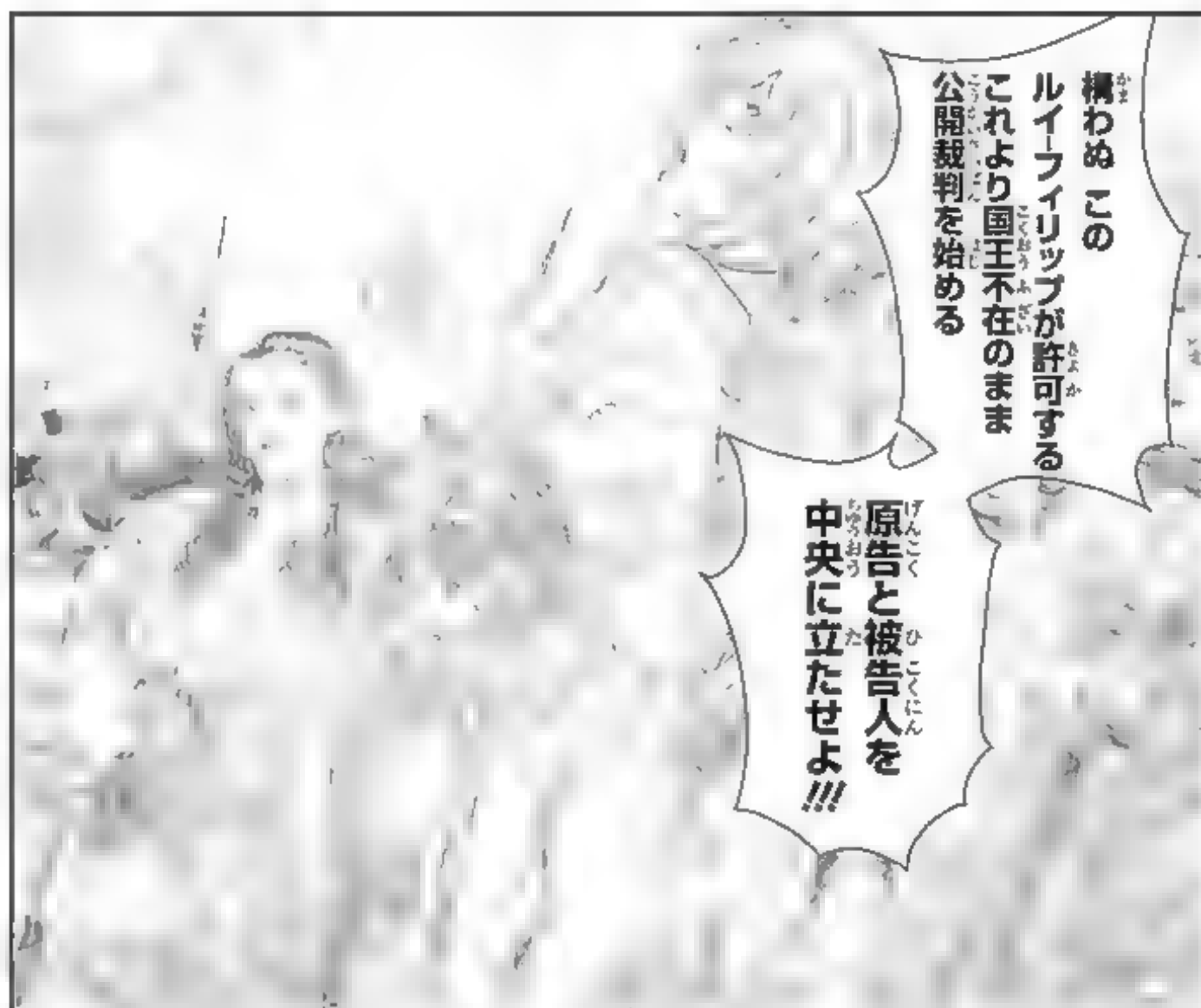
ゲホ  
ゲホッ



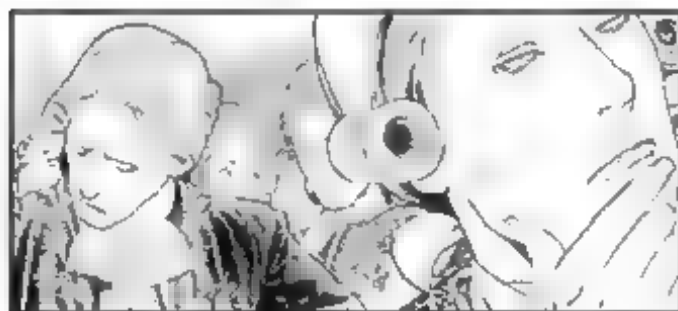
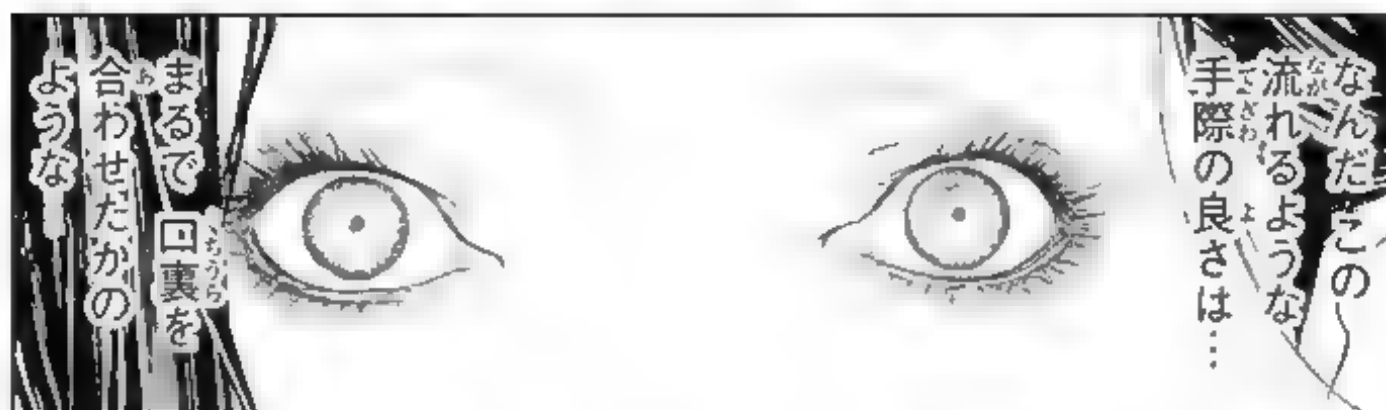
国王陛下と  
ポンパドール夫人は  
どちらへ？

いかな理由があろうとも  
国王が儀式を中座する  
事は許されていない  
はずだが？











ふむ 仕方が  
ありませんな

サンソン殿は  
弁護人は  
無しという事で

……  
!!!

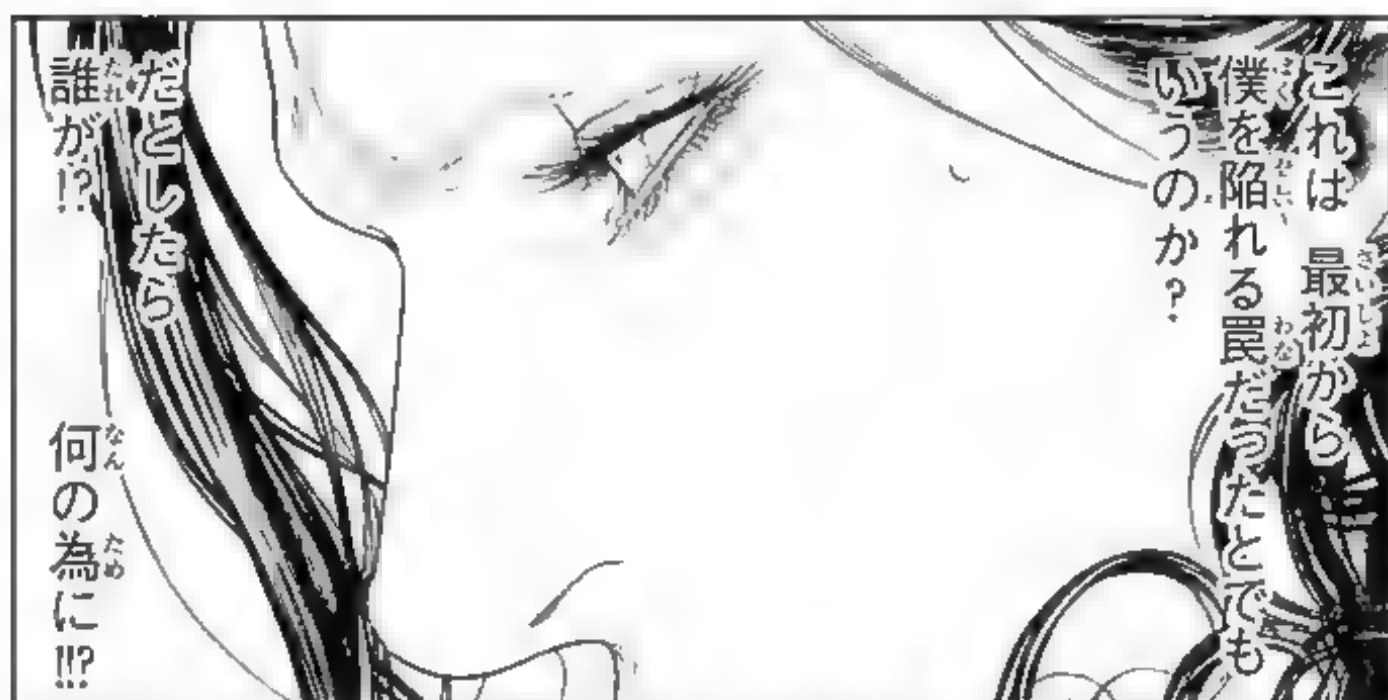


只今よりこの昼餐会を  
パリ高等法院の  
仮法廷とし

マルレ侯爵夫人の訴えにより  
死刑執行人  
シャルル・アンリ・サンソンの  
裁判を執り行う事とする!!!





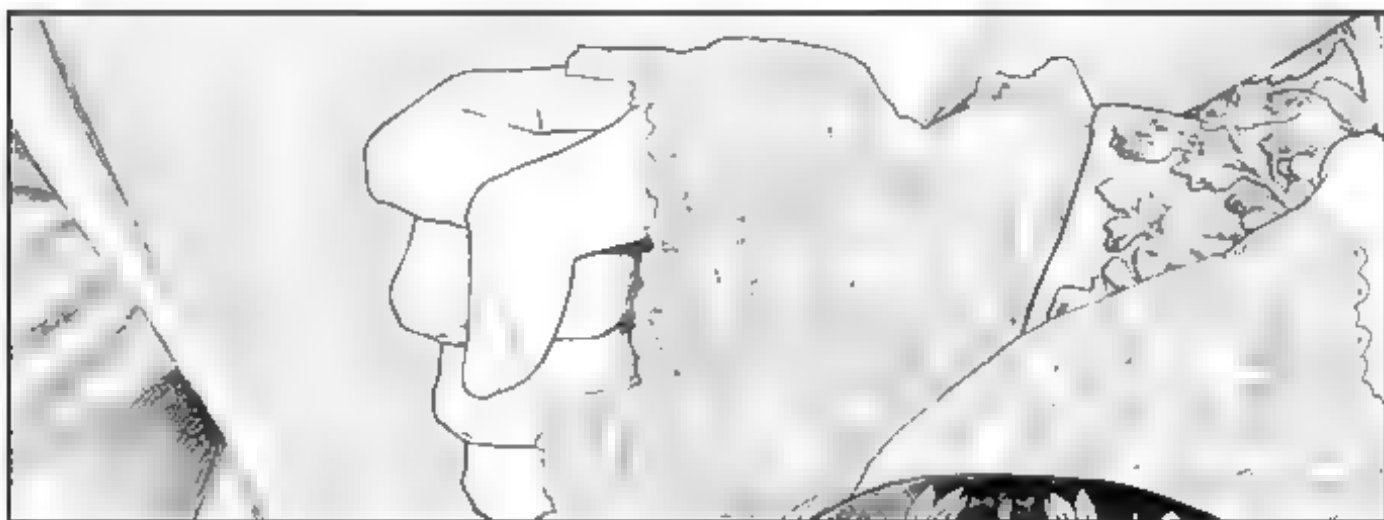




僕<sup>ぼく</sup>を取り巻<sup>まと</sup>く  
全<sup>すべ</sup>ての人間<sup>にんげん</sup>が

僕<sup>ぼく</sup>を欺<sup>あざむ</sup>いてるんじゃないのか——

……!!?



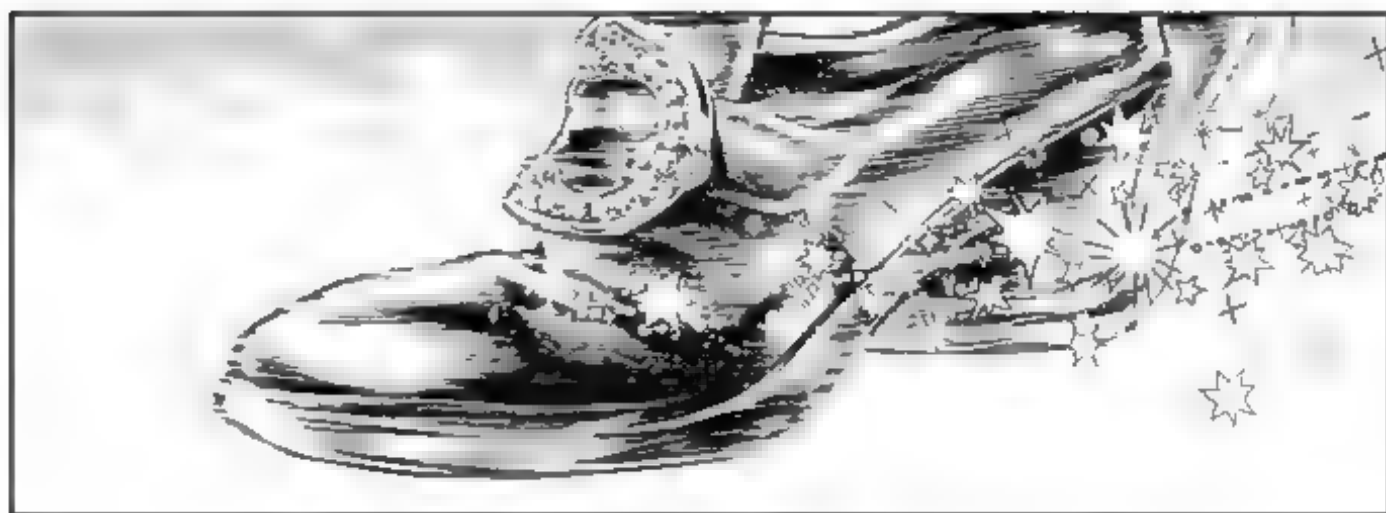
誰も<sup>だれ</sup>が  
煌<sup>きら</sup>びや  
かな外<sup>がい</sup>見<sup>けん</sup>と  
は  
裏<sup>うら</sup>腹<sup>はら</sup>に  
薄<sup>うす</sup>汚<sup>ぎた</sup>ねえ  
闇<sup>やみ</sup>を  
抱<sup>か</sup>え  
て  
い  
る  
の  
さ

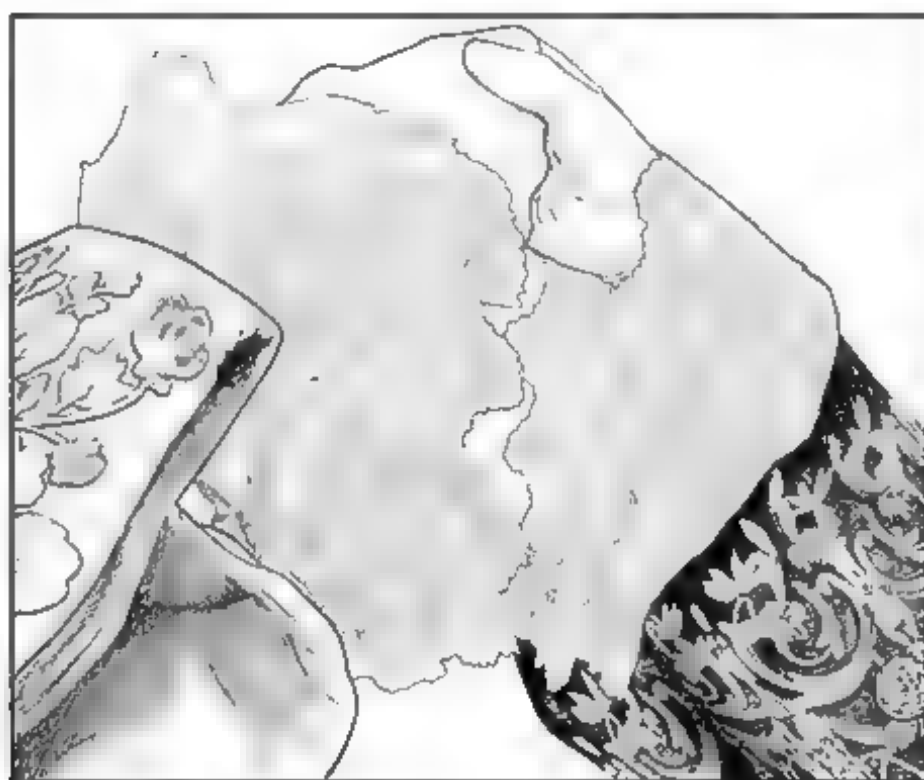
















ほくひとみ

僕の瞳を

み

見つめてごらん

マリー

n°68 正義の光



ほく  
僕がもう

かつての

ほく  
僕じゃないことが

わかるだろう?





くだらねえ…!!!



はく ひろみ やど  
僕の瞳に宿るのは

ゆう き さ ほう せい ぎ ひかり  
勇気 希望…そして正義の光!!!



な じし おな ち  
泣き虫 シャルロと同じ血が  
はんぶん からだ  
半分でもこの身体に  
なか なが  
流れてるかと思うと  
めい い  
気が滅入っちゃう

たの  
頼むから  
その気取った香水臭え顔を  
ちか  
近づけないでくれ!!!



にん む  
マリーの任務は  
「プレヴォテ・ド・ロテル」——



命<sup>めい</sup>じられれば  
兄<sup>あに</sup>でも構<sup>かま</sup>わず殺<sup>ころ</sup>す——!!!



僕は知っている

僕<sup>はく</sup>達<sup>たち</sup>が再<sup>また</sup>び  
仲<sup>なか</sup>の良<sup>い</sup>  
兄<sup>あに</sup>妹<sup>いもうと</sup>に戻<sup>もど</sup>れる  
こと<sup>こと</sup>を——...



ほら  
見てごらん

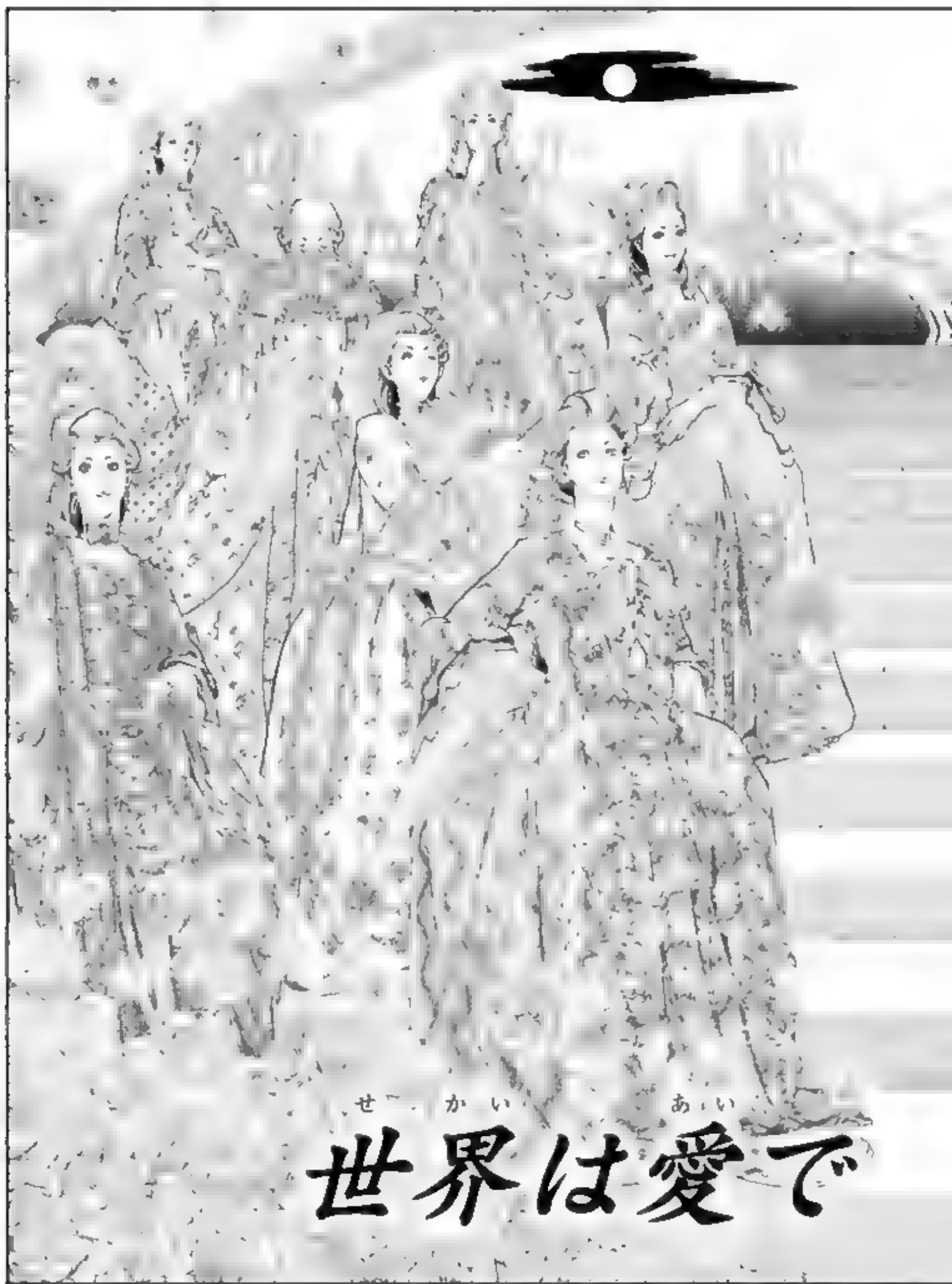


冷<sup>つめ</sup>たい腫<sup>はれみ</sup>だねマリ—

でもそんな腫<sup>はれみ</sup>で睨<sup>にら</sup>んだって  
僕<sup>はく</sup>は腫<sup>はれみ</sup>をそらさない!!!



み  
満ちている—!!!



せ か い あ い  
世界は愛で



マリー 世界は奇跡で  
満ち溢れている

世界は変わるんだ!!!





変わる訳がねえ!!

マリーは誰にも関わらねえ  
自分が好きなことさえ  
やればそれでいい



絶対に変わる!!!

新しい一歩を踏み出せマリー!!!



人は裏切る!!!



人は愛する!!!



にんげん < すば  
人間は素晴らしい

この世に生きる全ての生命は  
歓喜を分かちあう同志だ!!!













見ていてくれ  
マリー

僕達が本当に  
蔑むべき存在  
なのかどうか



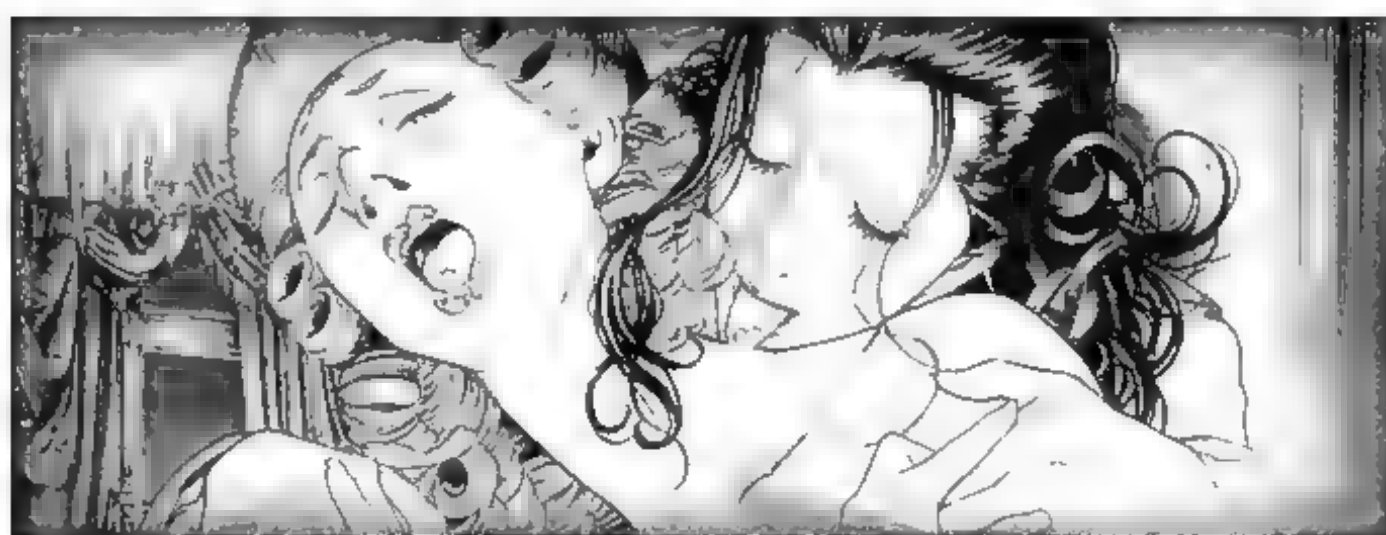
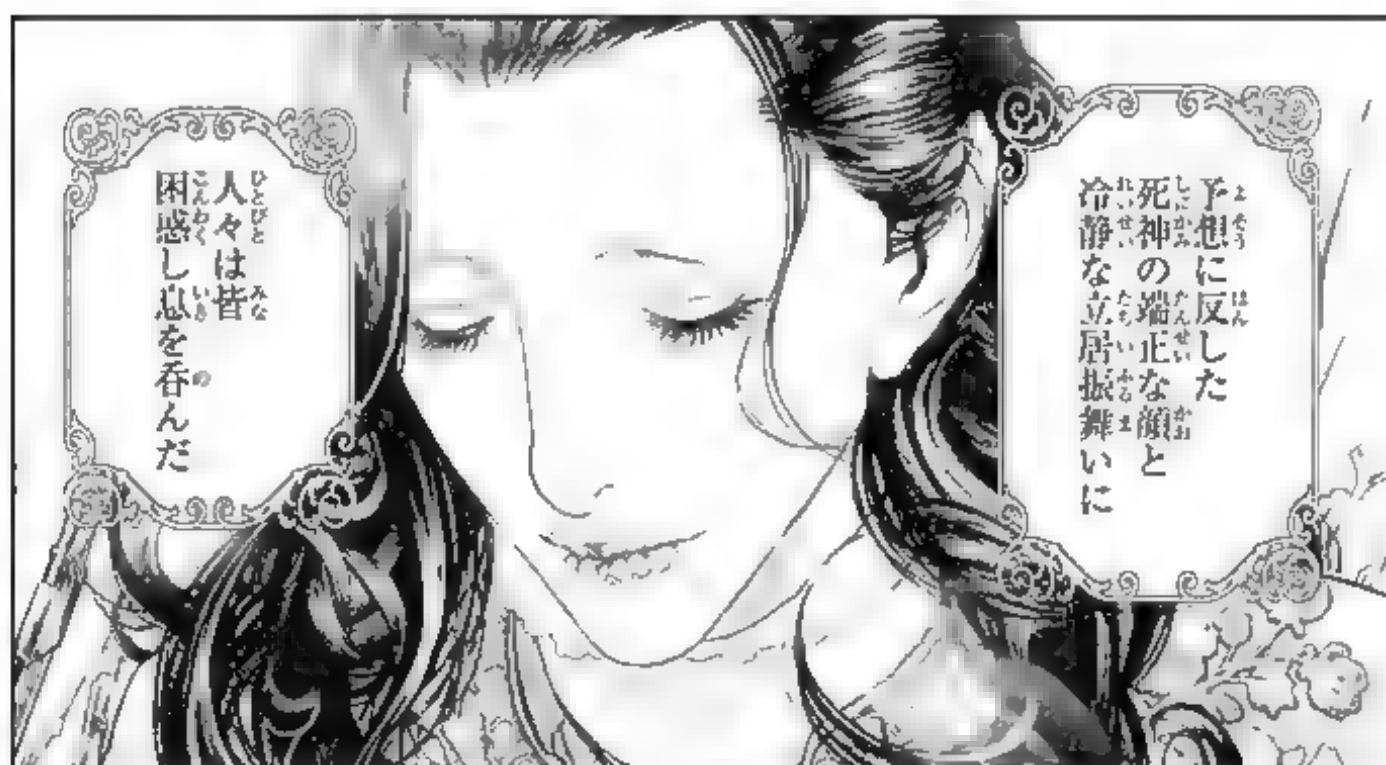
今ここで  
世界を変えてみせる——  
!!!

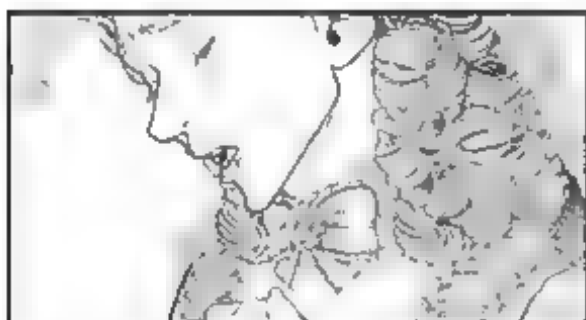


私<sup>わたし</sup>被告<sup>ひこく</sup>  
シャルル・アンリ・  
サンソンは  
この裁判<sup>さいばん</sup>において

嘘<sup>うそ</sup>偽<sup>いつわ</sup>りのない  
陳述<sup>ちんじゆつ</sup>をする事を  
神<sup>かみ</sup>と子<sup>こ</sup>と聖靈<sup>せいれい</sup>の  
名<sup>な</sup>に於<sup>お</sup>いて  
皆<sup>みな</sup>様に<sup>さま</sup>誓<sup>ちか</sup>います

Ⅲ69 青<sup>あじ</sup>き装束<sup>しょうそく</sup>の処刑<sup>しゅけい</sup>人<sup>にん</sup>







お任せ下さい  
フィリップ殿下……!!!

我が一族は  
代々オルレアンの家臣

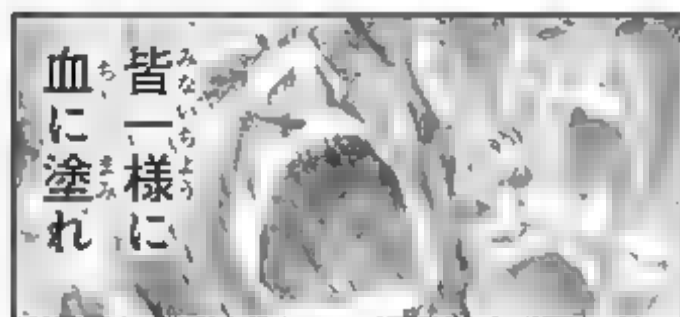


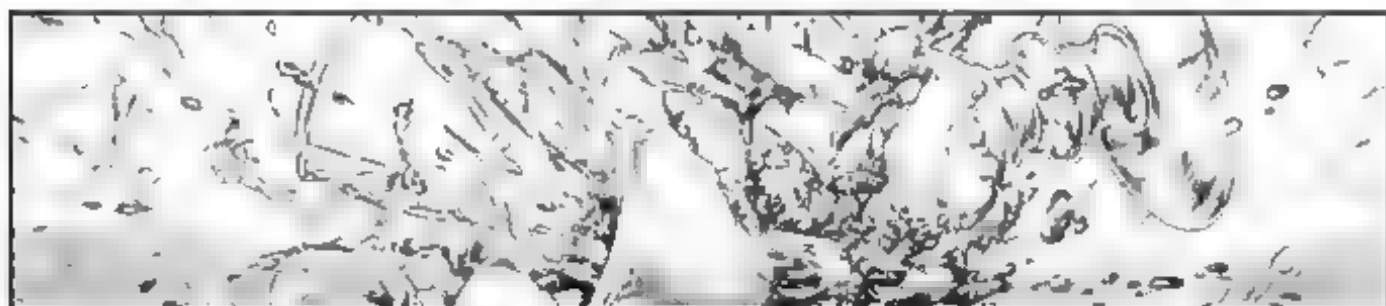


お前に勝ち目は無い  
その涼し気な顔も今のうち

この裁判が終わる頃には  
地にひれ伏し 私の靴を舐めながら  
許しを請う事になるだろう









太陽王の威信に満ちた  
この光輝く  
ベルサイユ宮ですら



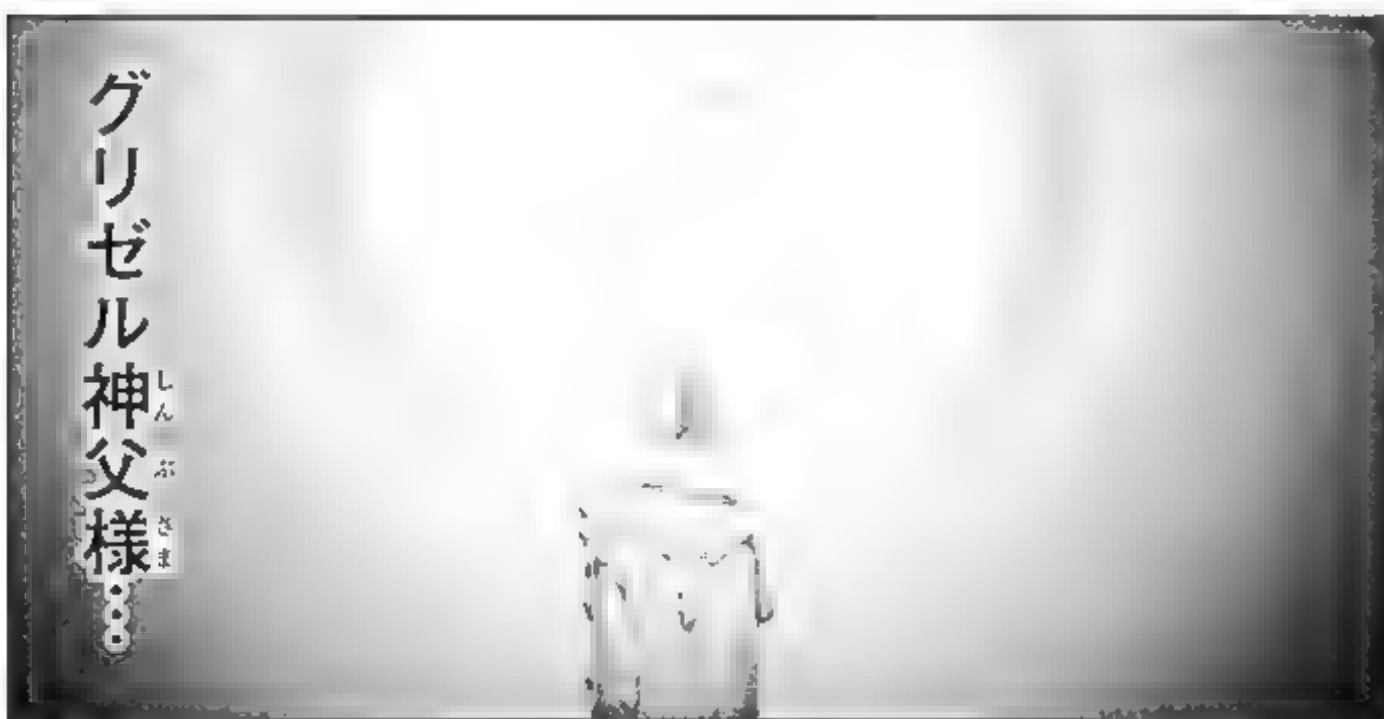
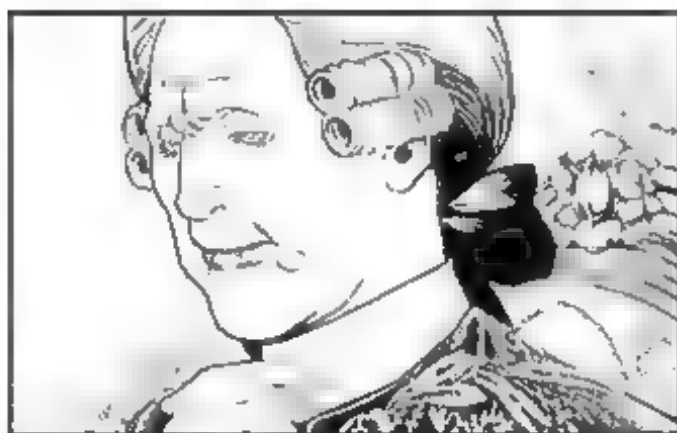
闇<sup>やみ</sup>が押し寄せ<sup>おしよ</sup>  
悪霊<sup>あくりょう</sup>に覆<sup>おほ</sup>い尽く<sup>つく</sup>される  
ことでしよう











シャルル：  
古代ソロモン王や  
ダビデ王の時代には  
裁判所はなく

王が判決を下し  
寵臣が刑を  
執行したのだ

神父様の教えは  
僕にとって  
闇を照らす希望の光

死刑執行の権利は  
王が友情の証として  
家臣に与えた  
最高の名誉だった……





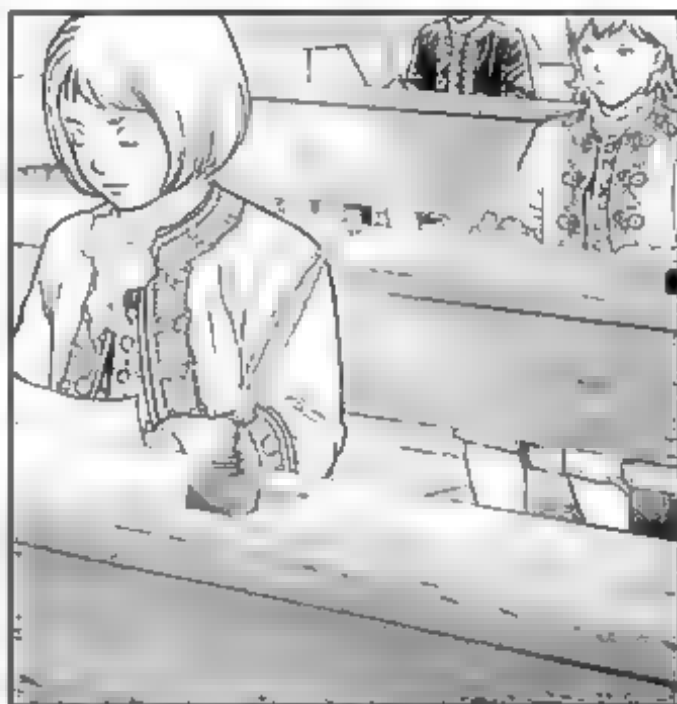
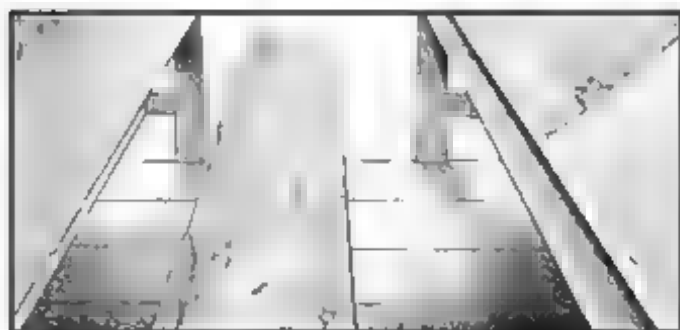




それでは  
聖体拝領を受ける  
生徒はこちらに  
並びなさい

※聖体拝領 礼拝の一端で聖餅とワインを飲む儀式







僕はもうかつての僕のように  
沈黙に逃げたりはしない

裁判官殿  
私が述べた事は  
この場に合わせた  
虚勢ではなく

私の無垢なる  
心から生じた  
真実の想いです!!!

傷つくことを怖れていては  
新しい時代は  
やって来ないんだ——!!!

70

シグルルの自己弁論





実に  
不愉快です  
裁判官殿!!!

我々貴族とこの  
下賤な職業の男が  
同じ身分だと  
主張するならば

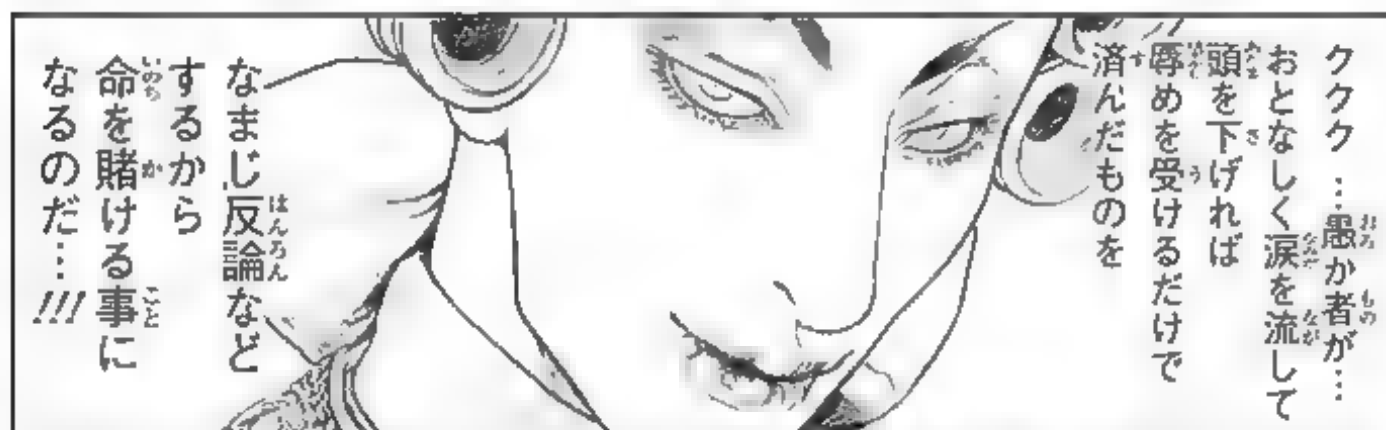
皆様の目の前でその  
根拠を示して  
頂きたい……!!!

その代わり……

もし  
それが証明  
できなかつた  
場合は……

貴族及び  
国王陛下に対する  
不敬罪とみなし

死刑を  
宣告されるように  
要求致します!!!









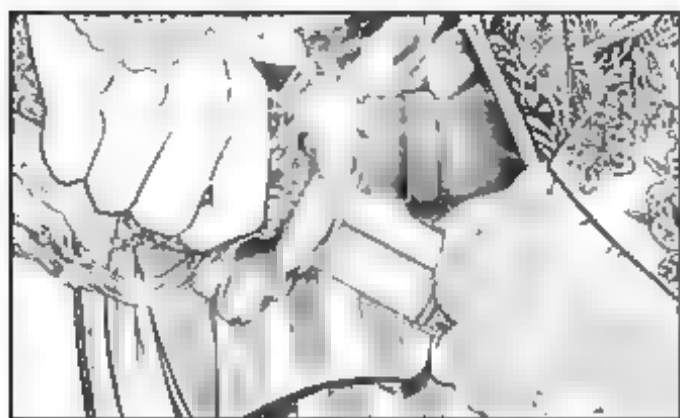


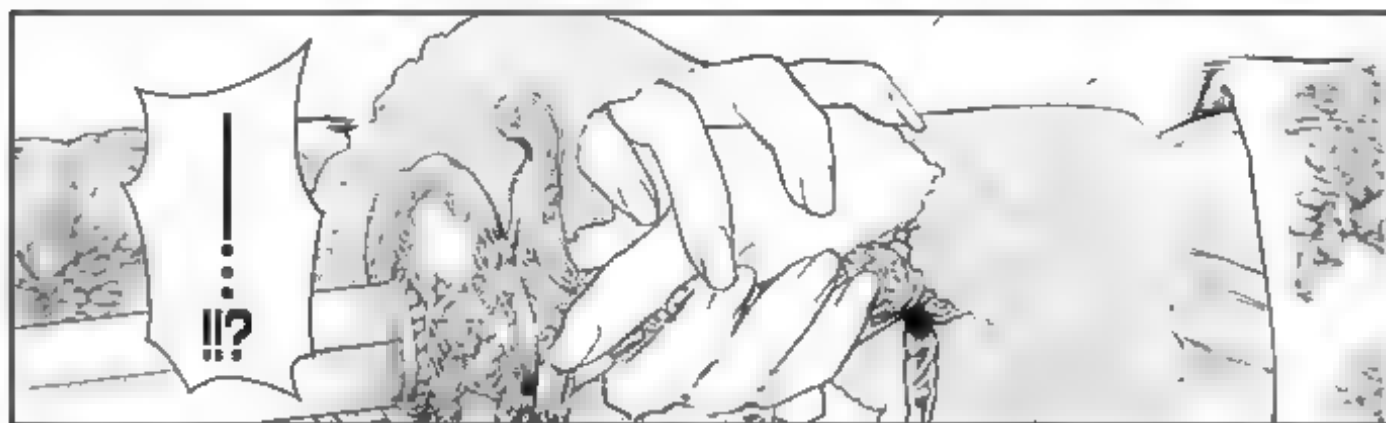


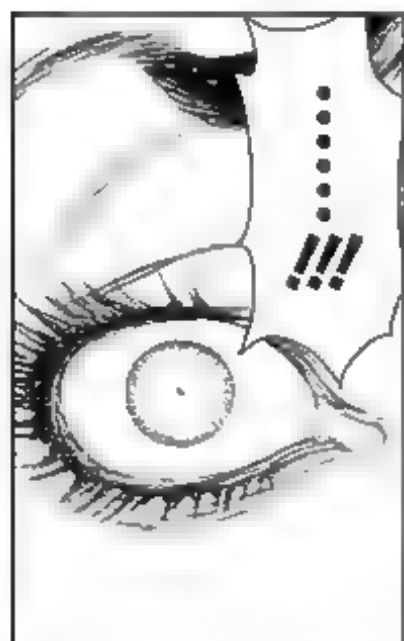
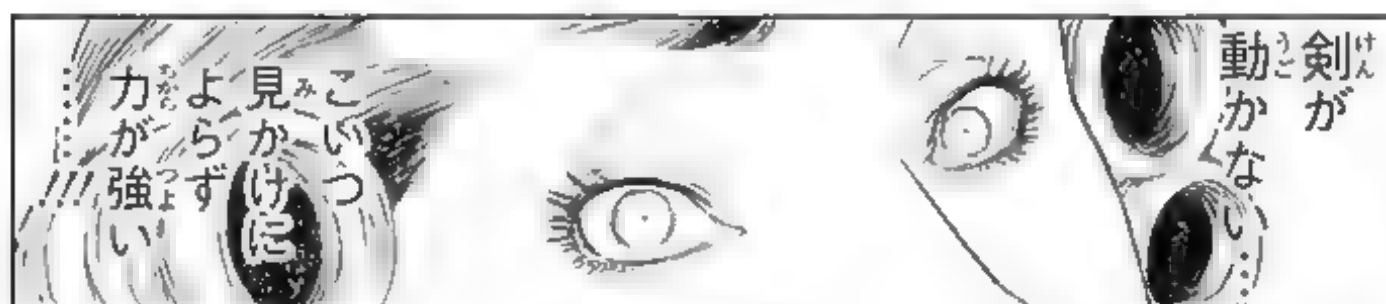
私<sup>わたし</sup> シャルル・アブリ。サンソンは  
たった一人<sup>ひとり</sup>で

パリ60万人<sup>まんにん</sup>の安全<sup>あんぜん</sup>を  
維持<sup>維持</sup>し続けているのです!!!

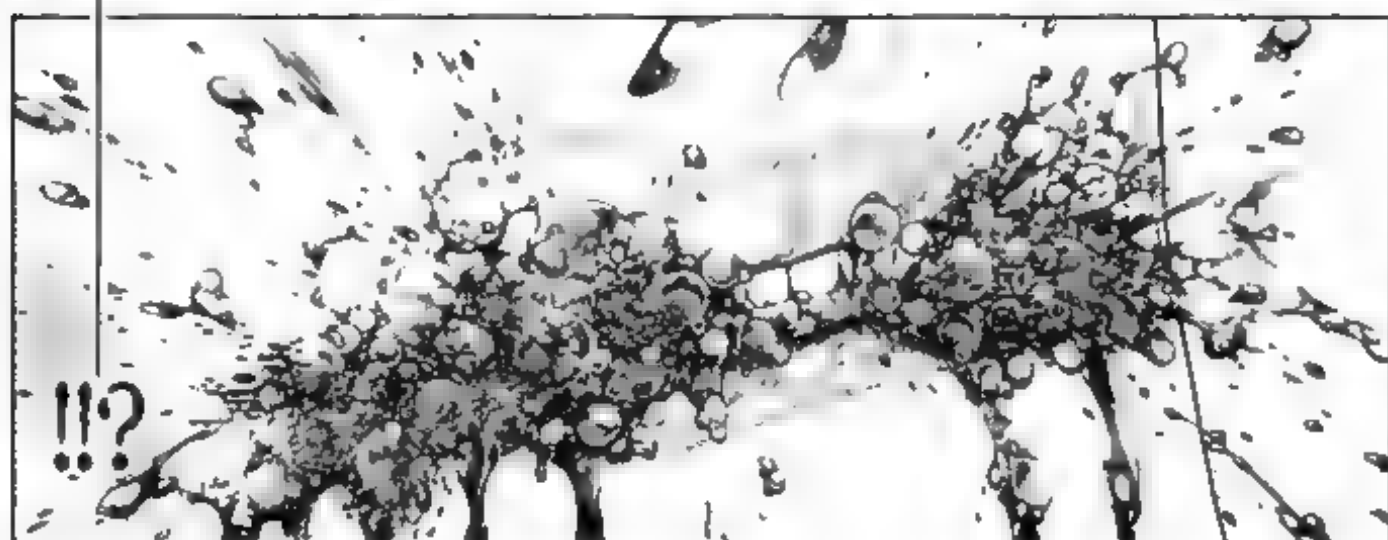














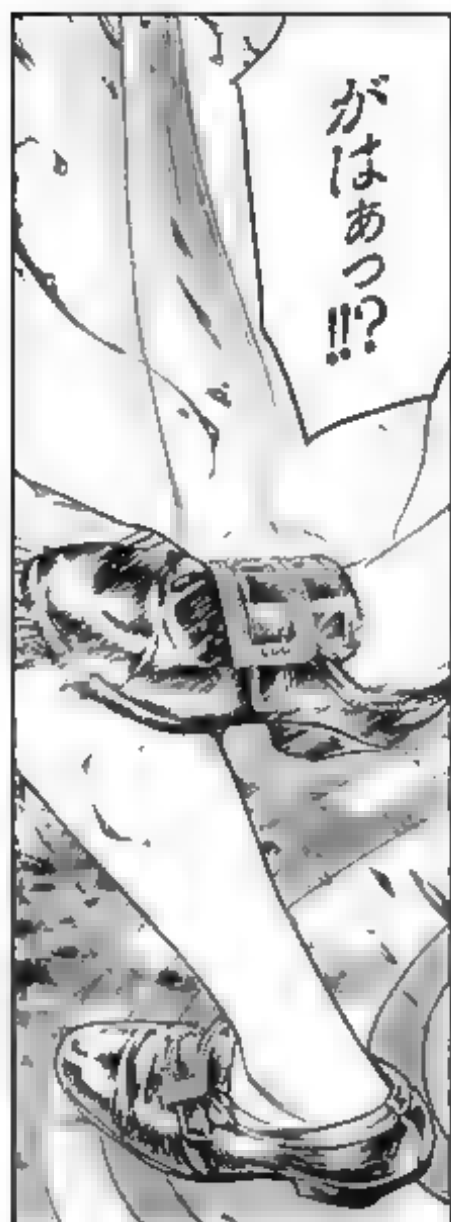


で…  
殿下…!!?

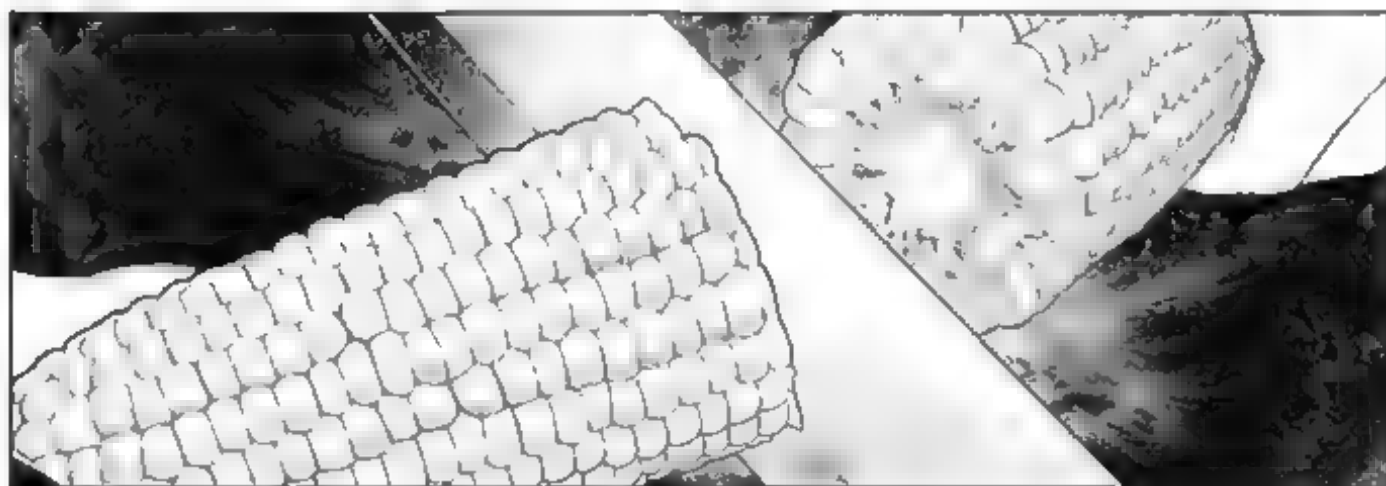
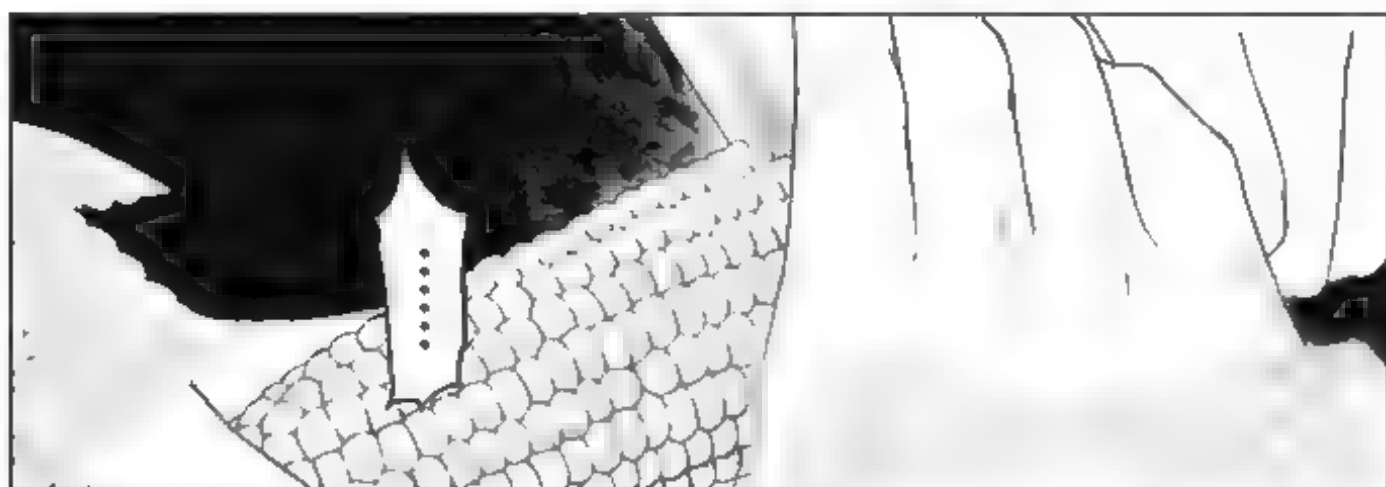
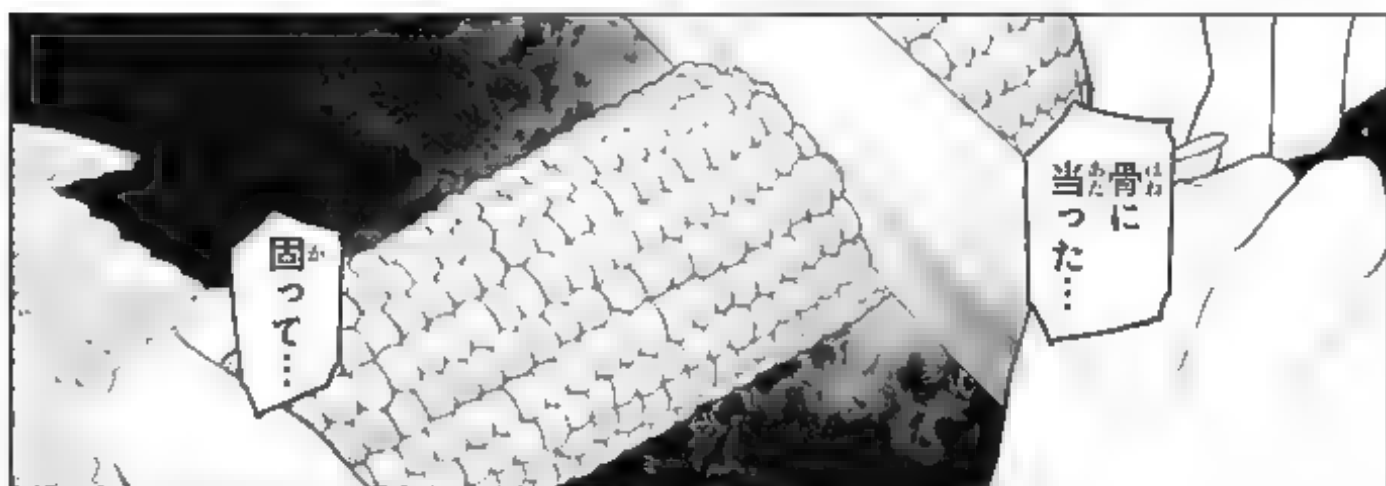
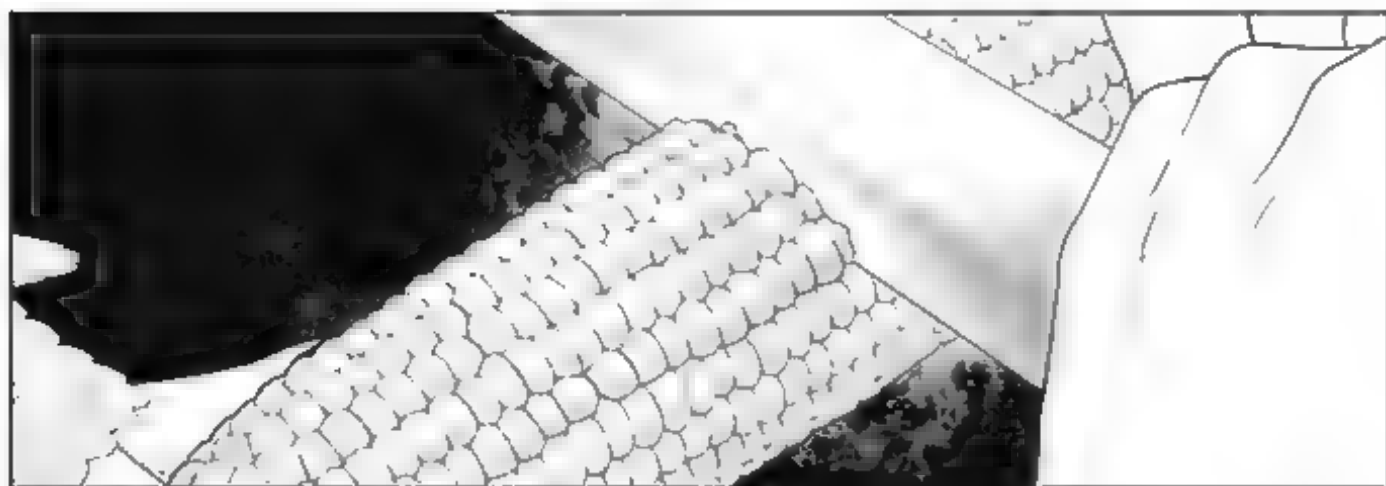


俺は  
死神サンソンに  
一票を投じる

我々の世紀の  
汚辱を改めるは  
我々の職務である  
ぞ……!!!









no 71 白い嵐の予感







ゲエー……



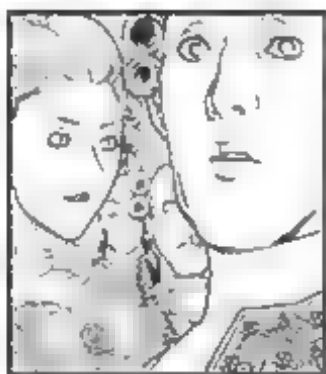
みなもの  
皆の者  
よく  
聞けい!!!

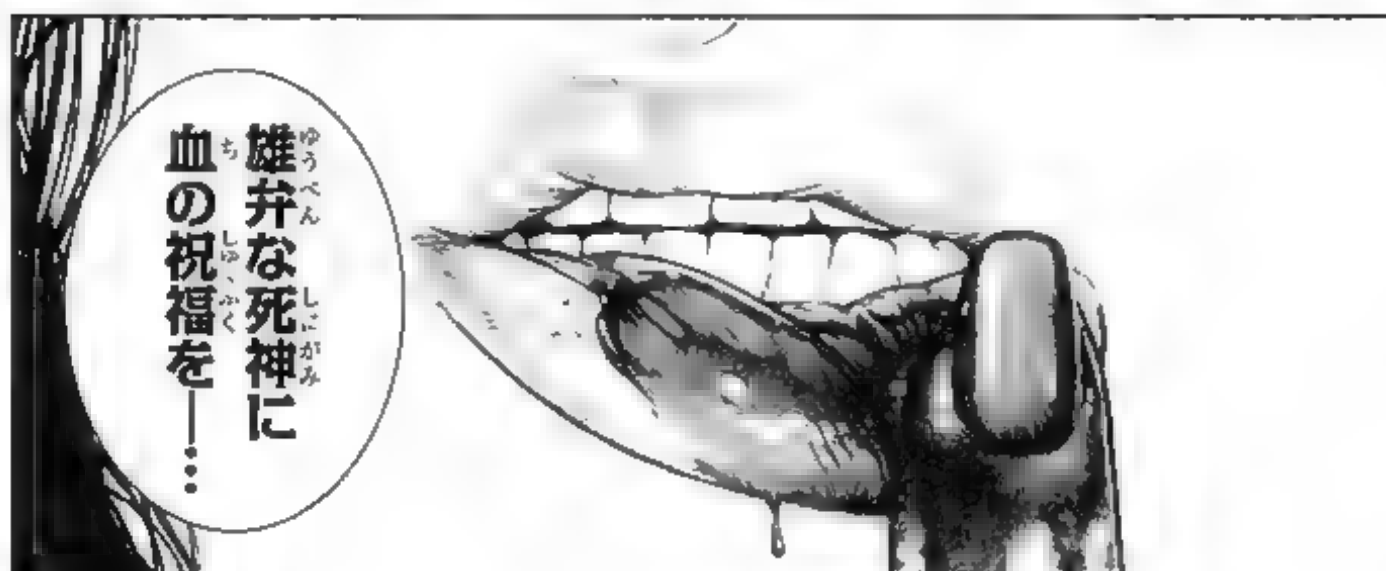


これなる  
エティエンヌは  
神聖なる  
法の場  
において

己が不利になったと  
みるや剣を抜き  
相手を殺そうとする  
野蛮な行爲を行った!!!

これはフランス軍人の  
品位を汚すものであり  
このフィリップが  
手打ちに致した!!!

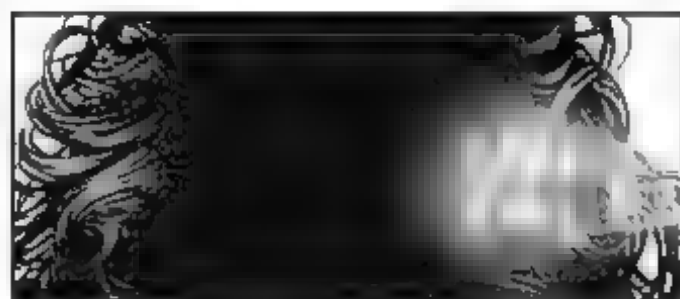


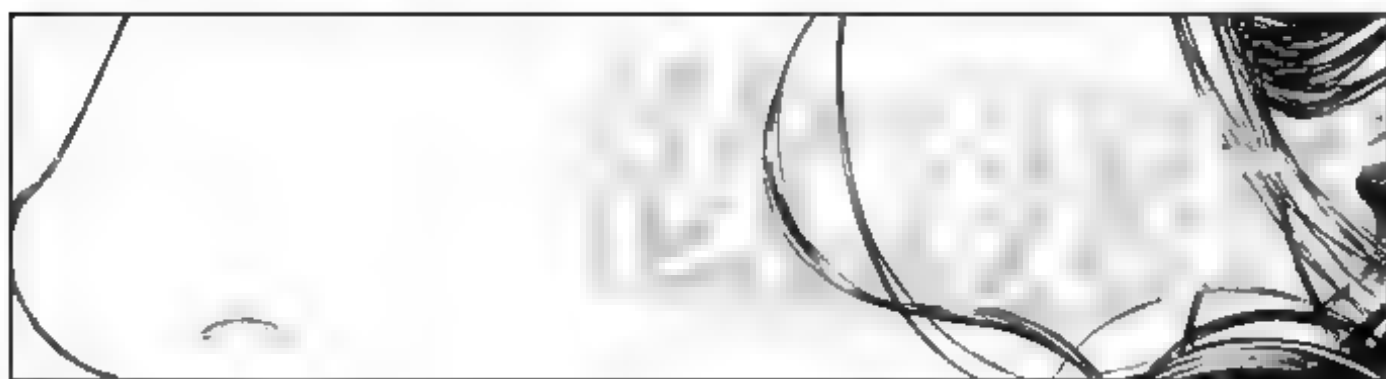




これで  
まえ  
お前と同じ  
おな

私も  
わたし  
死神の仲間と  
しにがみ  
いう訳だ  
わけ

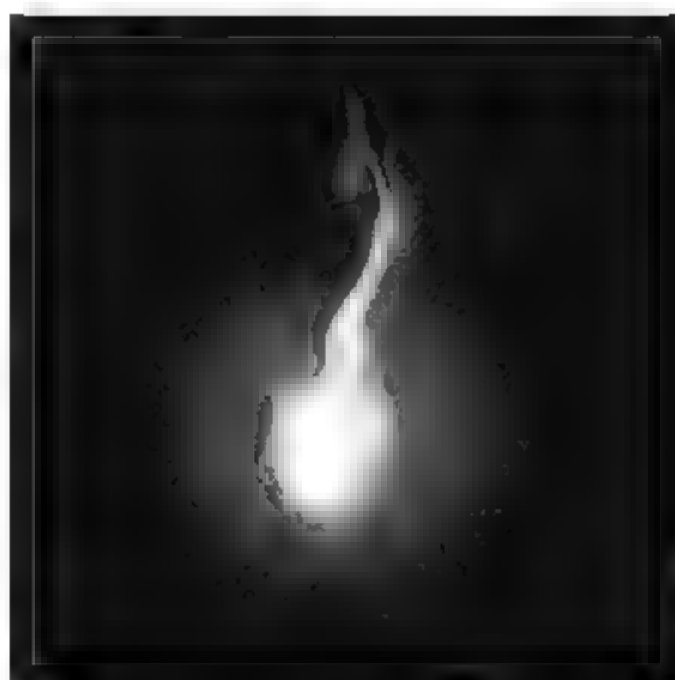










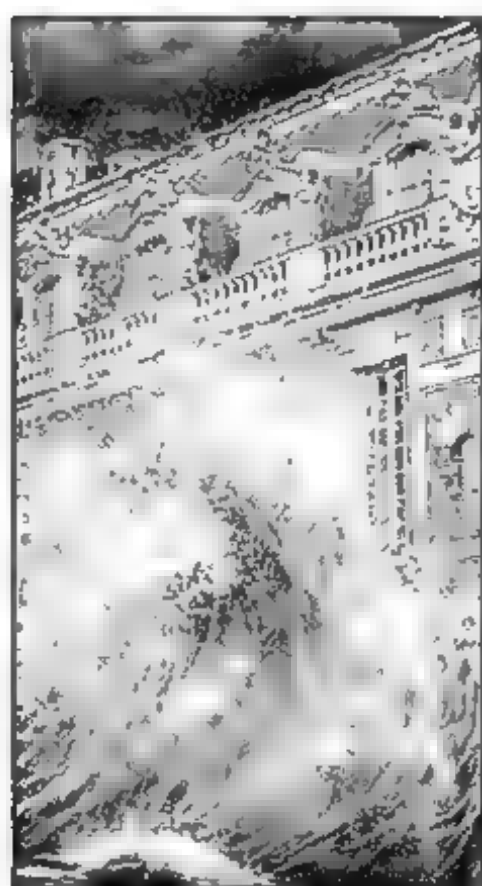


たっ た 一<sup>ひと</sup> つ

ウイ  
アベック・アレジール  
喜んで...!!!

希望<sup>きぼう</sup>の灯<sup>ひ</sup>が繋<sup>つな</sup>がった









その夜  
サンソン邸に  
王家の紋章が押された  
手紙が一通届いた

シャルル・アンリ・サンソンに  
ペリー公ルイ・オーギュストの  
友人の証として  
彼のイニシャルの入った指輪を  
与えるというものであった

A Monsieur S  
A le 14 octobre

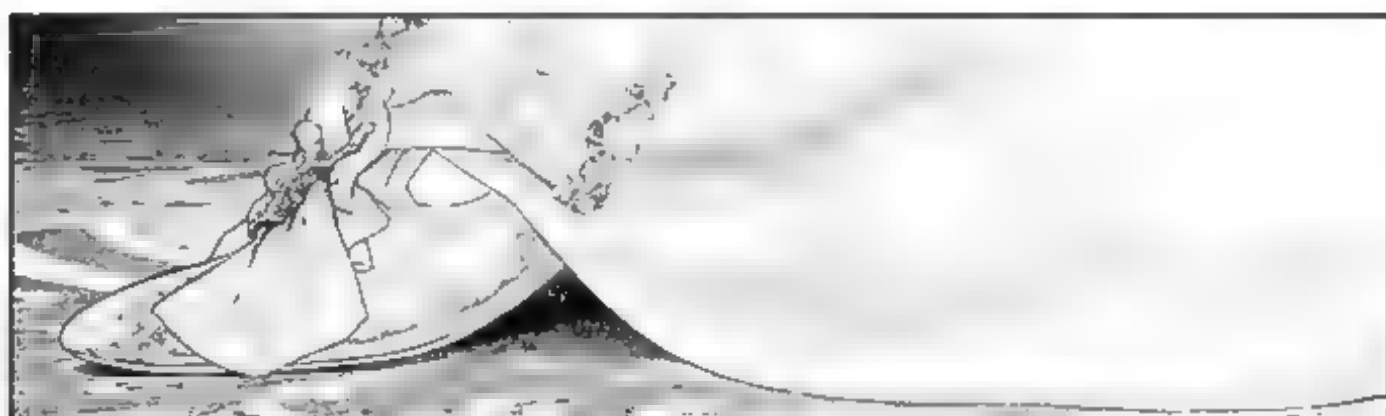
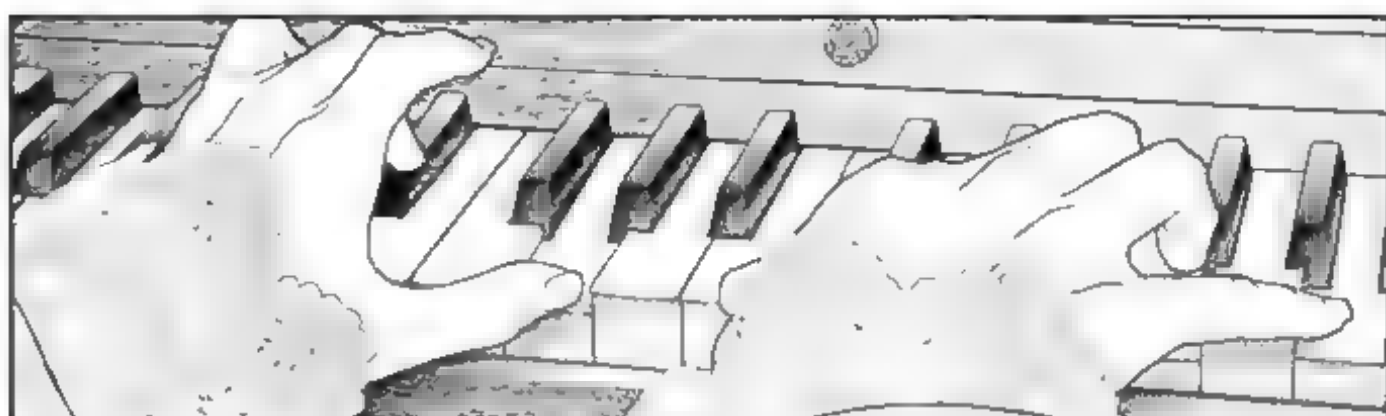
Comme je n'ai pas d'ar  
mille moustaches a mon  
tout faire la guerre  
de

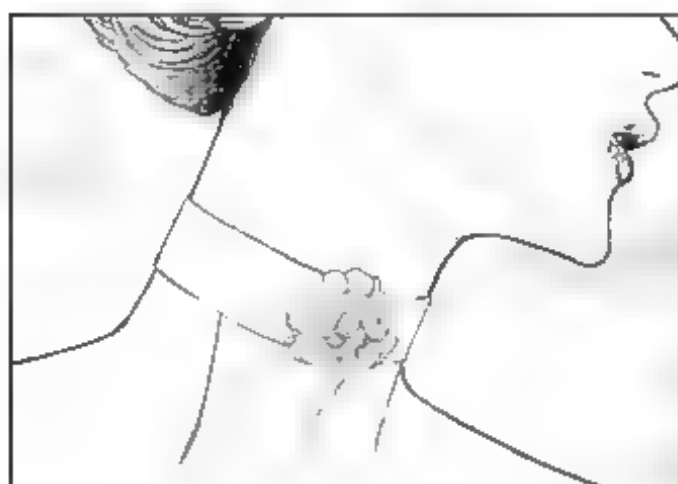
A Monsieur Sanson

A Rue de St Anne Paris

ねん  
1763年  
がつ  
10月

オーストリア  
ウィーン  
シェーンブルン宮殿<sup>きやうでん</sup>







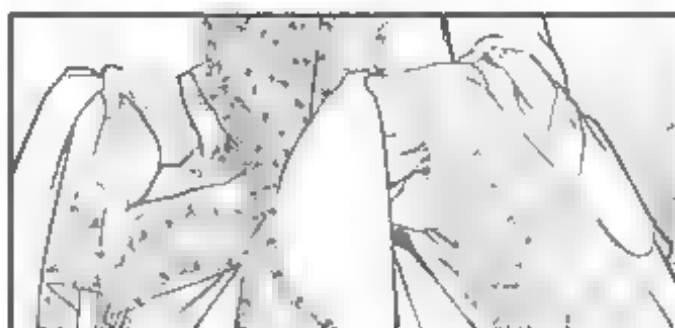
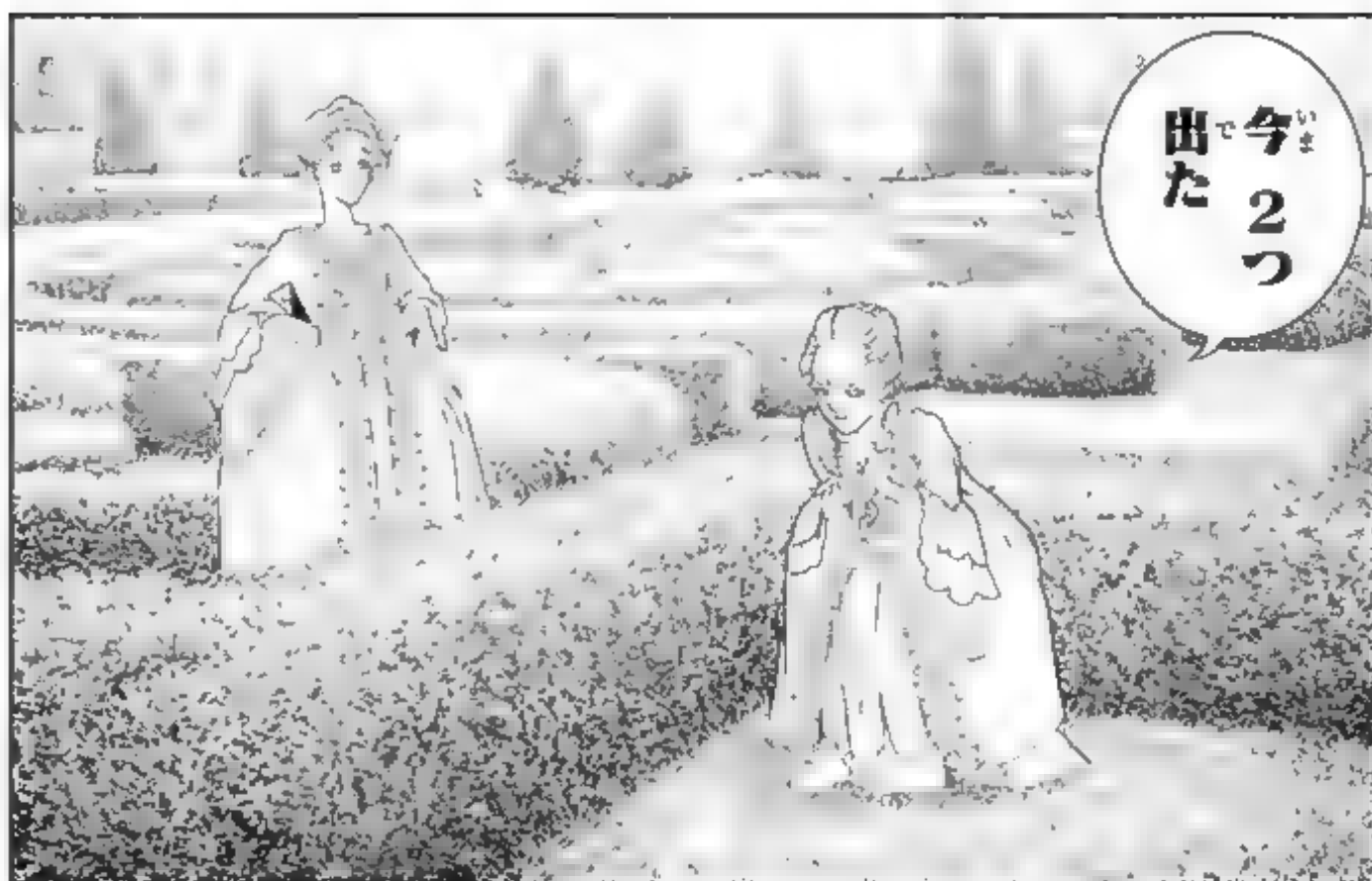
n°72 奇跡の花嫁

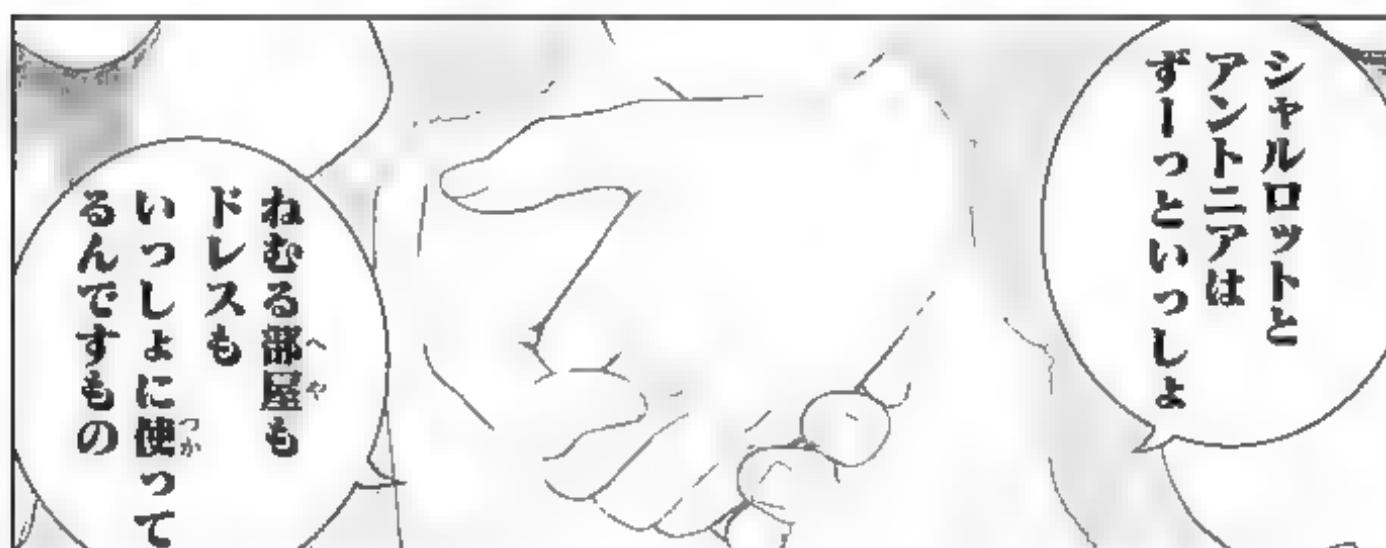












春<sup>はる</sup>は  
はなかんむりで  
バレエ





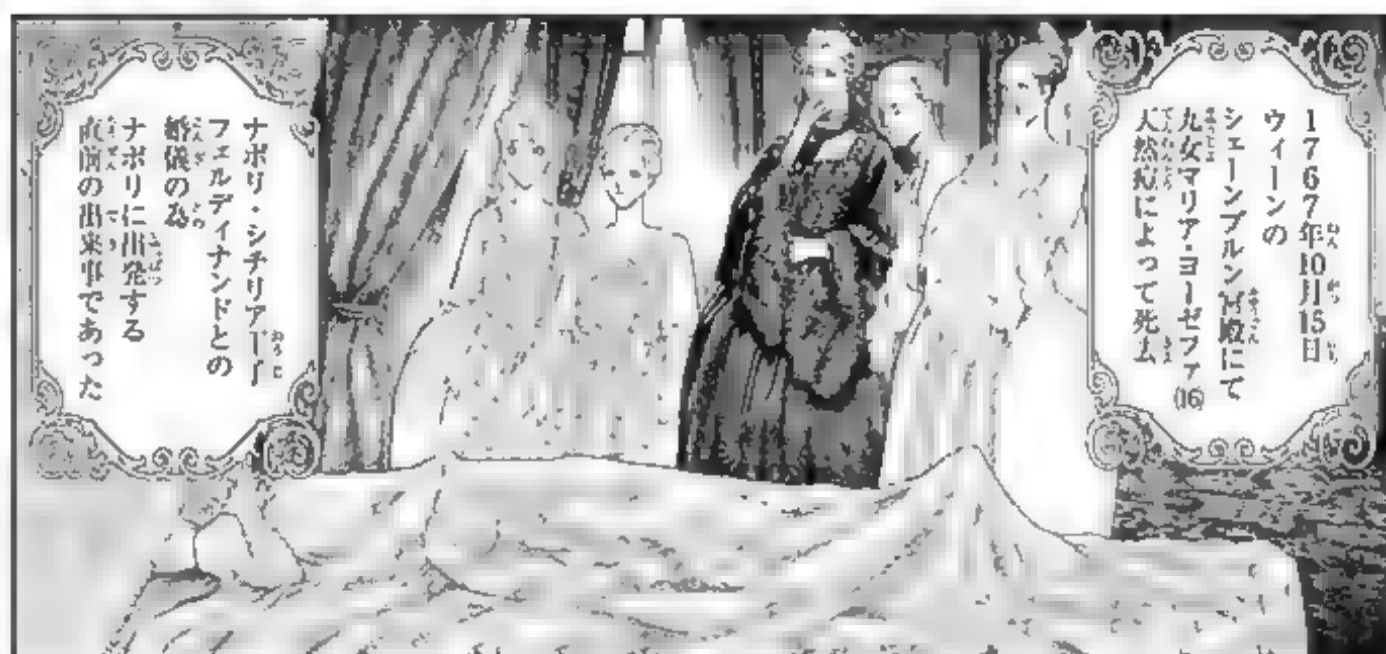
夏は  
ボートで  
水あそび



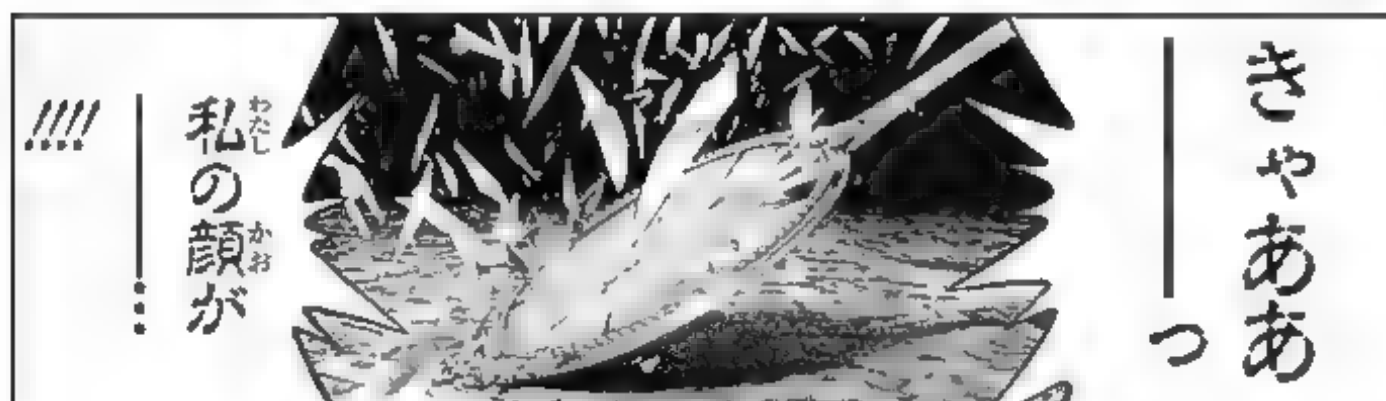
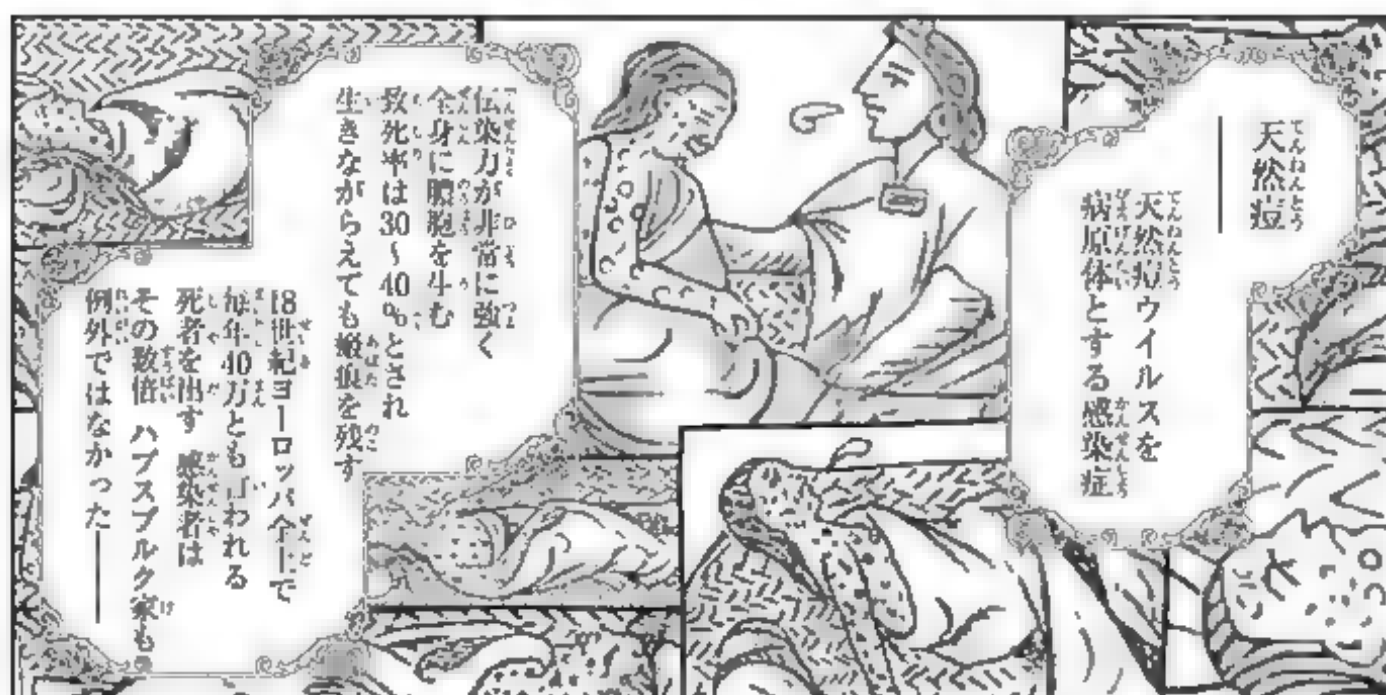
秋はリンゴや  
プラムを狩って  
おなかいっぱい  
たべるの



そして  
冬はソリ遊びを  
しましよう!!

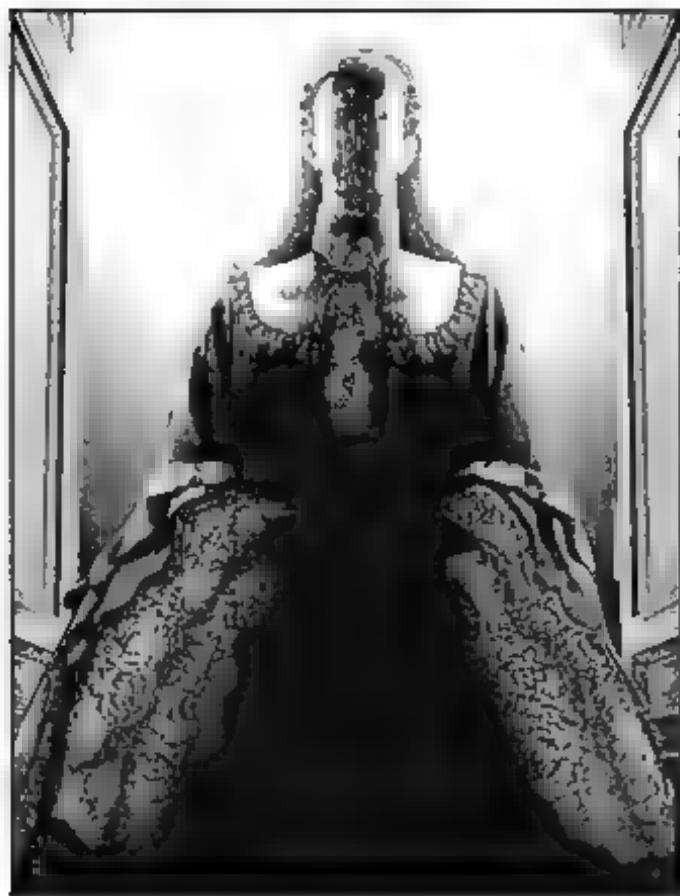














1769年 仇敵  
映ハブスブルク家と  
仏ブルボン家を  
結び合わせる事となる

書簡がルイ15世から  
マリア・テレジアに届いた

フランス王太子  
ルイ・オーギュストと  
オーストリア第十一皇女  
マリア・アントニアとの婚姻を  
申し込むものであった

この  
ギリシャ神話の  
ユピテルとシユノンとを  
よくご覧なさい

アントニア

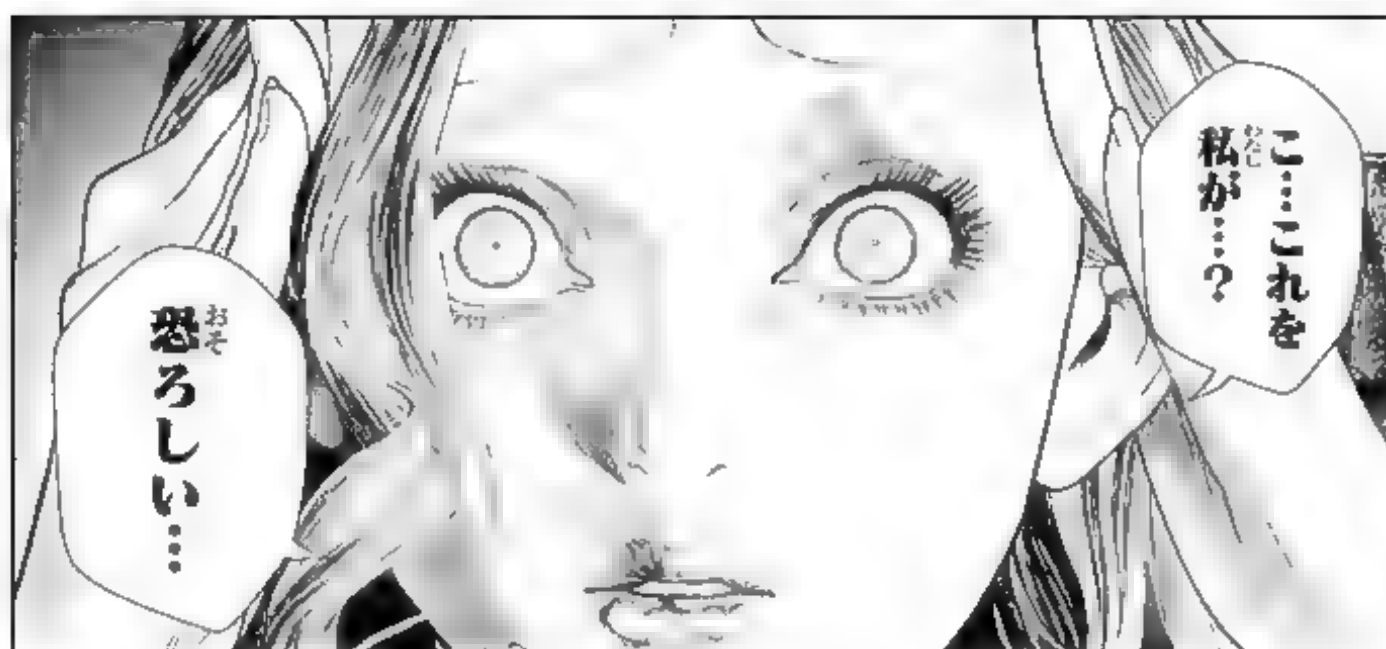
このように  
股方のペニスが  
膨らんでから


あなたの  
膣に迎え入れる  
のです

JUPITER ET ANTONIA









目を反<sup>そ</sup>らしては  
なりません  
アントニア

あなたが  
フランス王<sup>おう</sup>との  
子を成<sup>な</sup>す事<sup>こと</sup>が我<sup>わ</sup>が  
オーストリア全土<sup>ぜんど</sup>の  
幸<sup>しあ</sup>せなのです

73

供儀の薔薇

神<sup>かみ</sup>が  
あなただけに課<sup>か</sup>された  
特別<sup>とくべつ</sup>な運命<sup>うんめい</sup>なのです!!



気が遠くなる程の  
書簡が両国を  
行き来した後

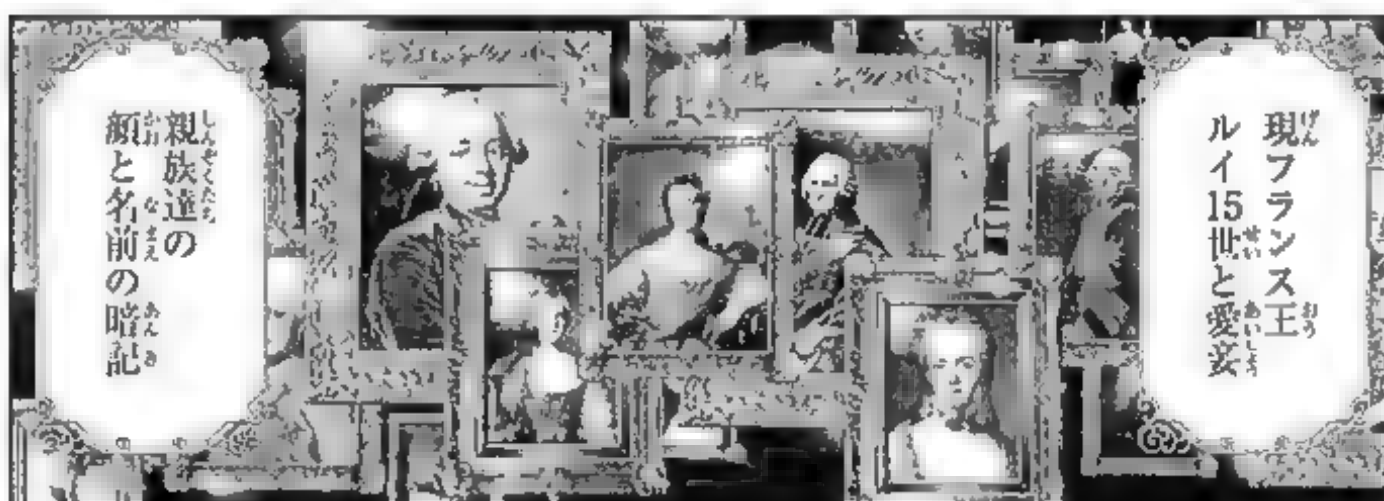
オーストリア皇女  
マリア・アントニアと  
フランス王太子  
ルイ・オーギュストとの婚儀は  
1770年5月16日と決まった



人類初の世界戦争  
と「われる  
「七年戦争」に勝利した  
イギリスプロイセンは

産業革命によって  
手に入れた巨大な  
資本を元に まさに  
日の昇る勢いであり

200年来の仇敵であった  
フランス・オーストリアは  
既に両年に結んでいた同盟を  
より強固にする為  
王族同士の婚姻を必要と  
していたのである――



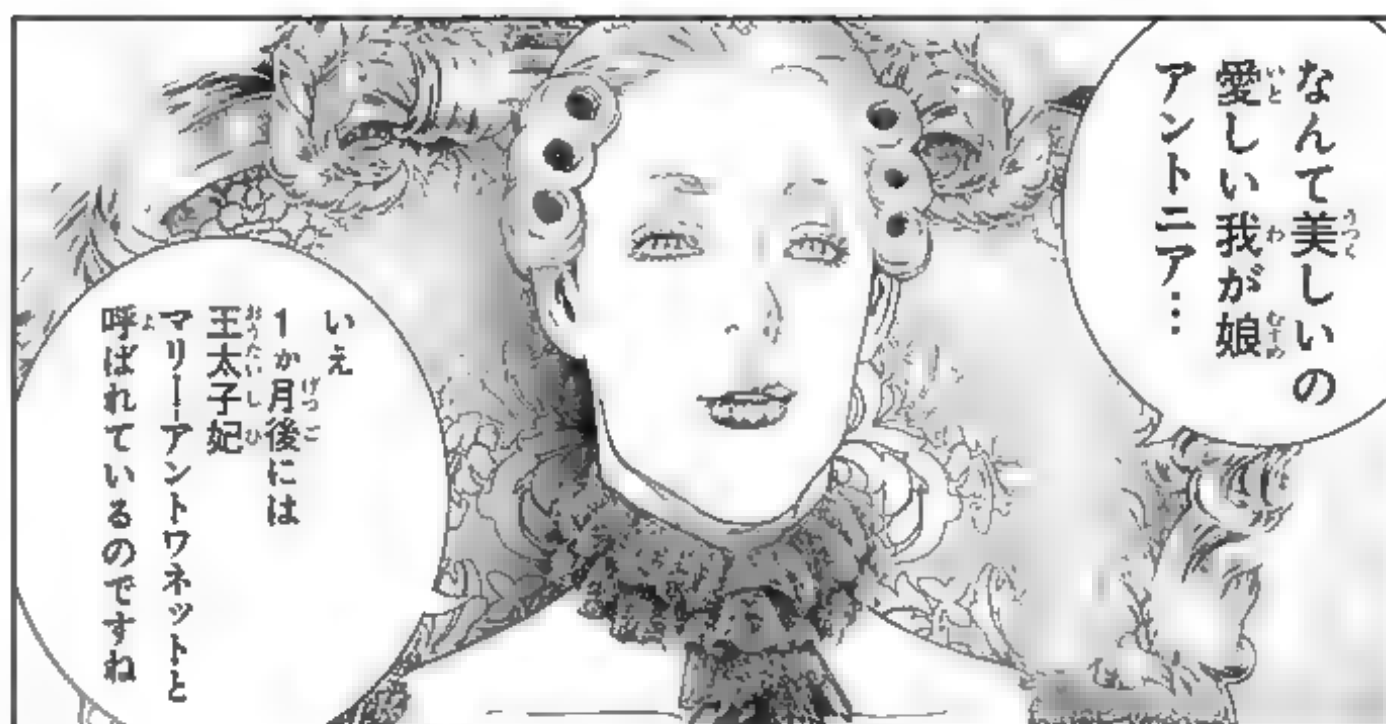


ねん  
1770年  
がつ にち  
4月16日

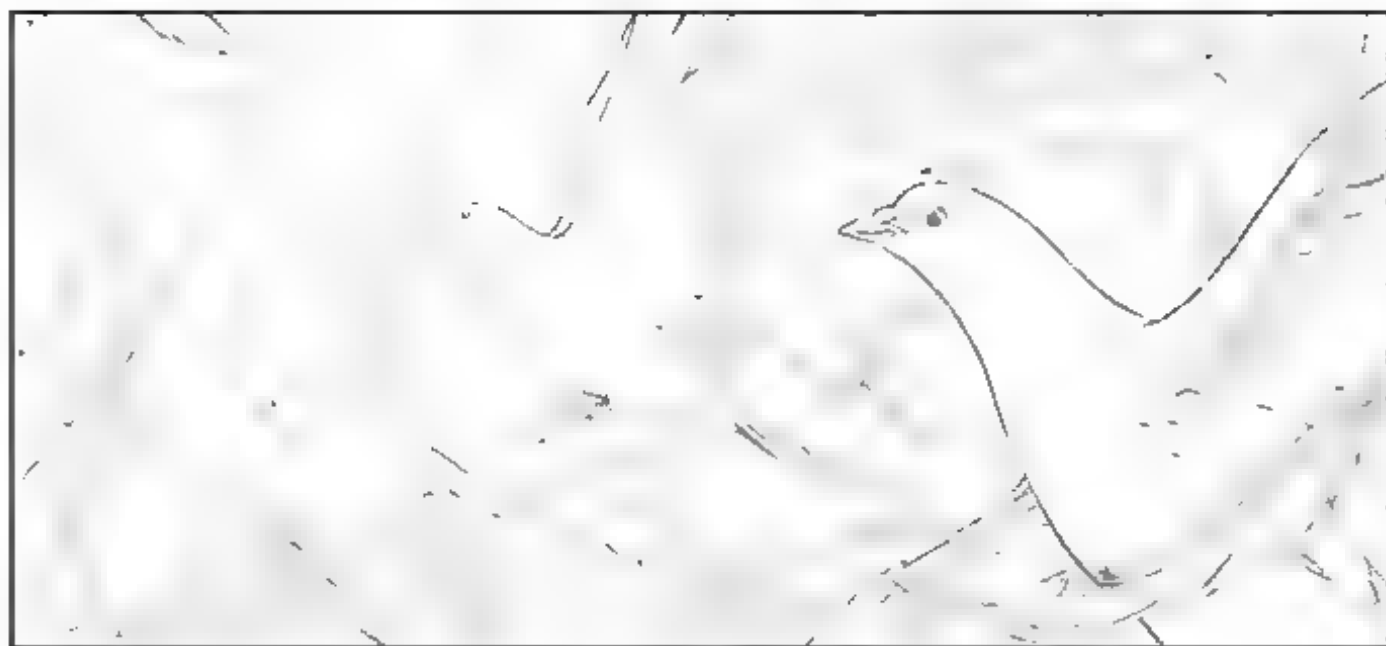
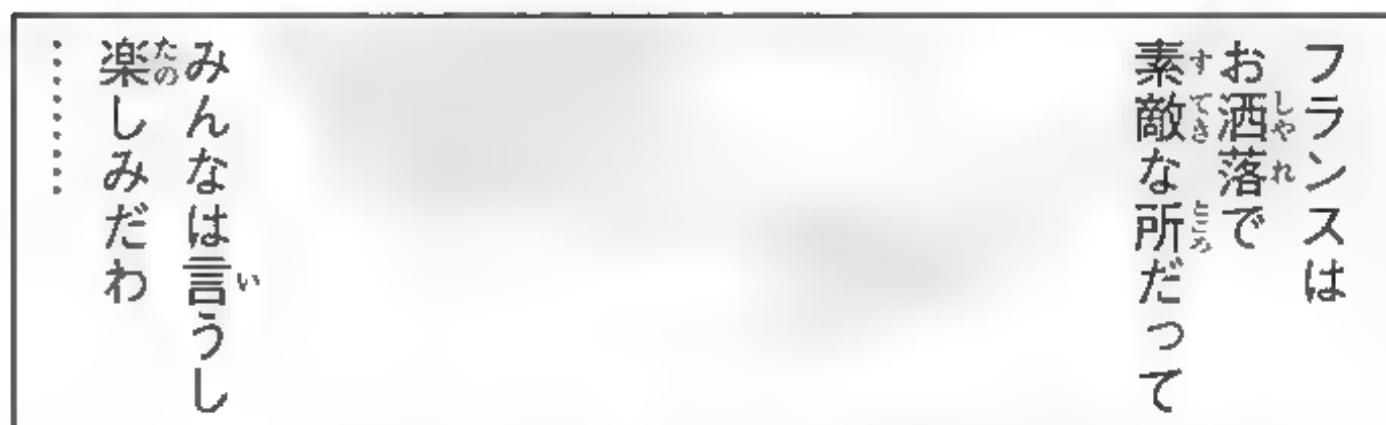


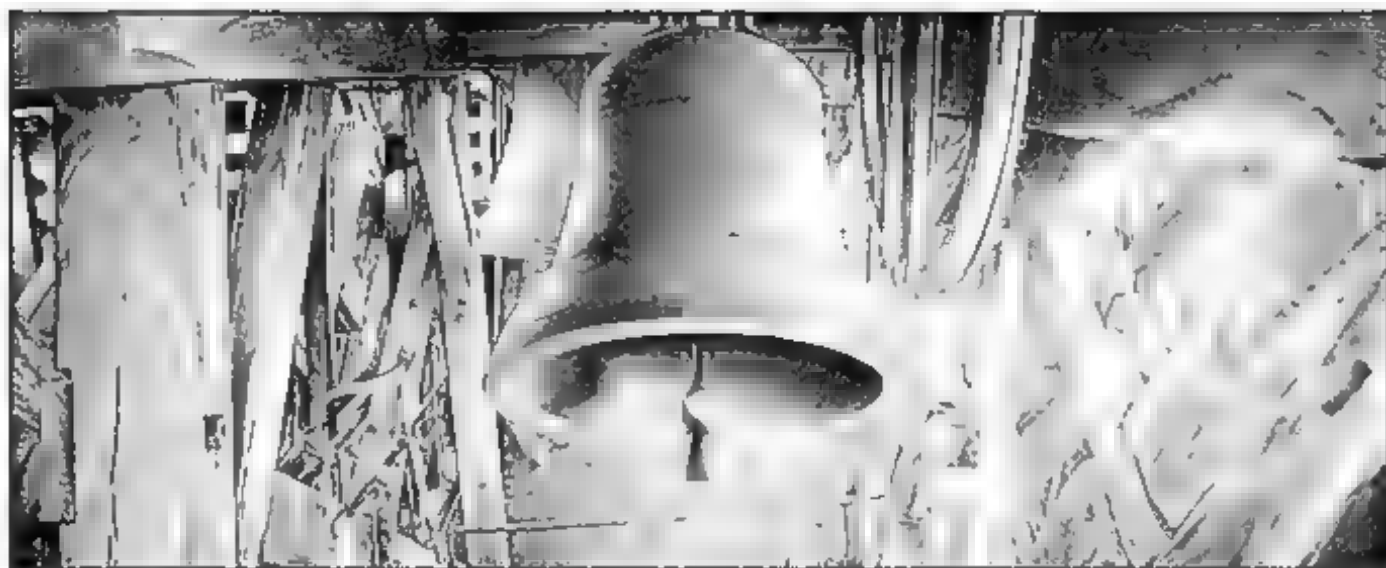


マリア・アントニア  
・ヨーゼファ・ヨハーナ  
14歳さい









ねん  
1770年  
がつ にち  
4月16日



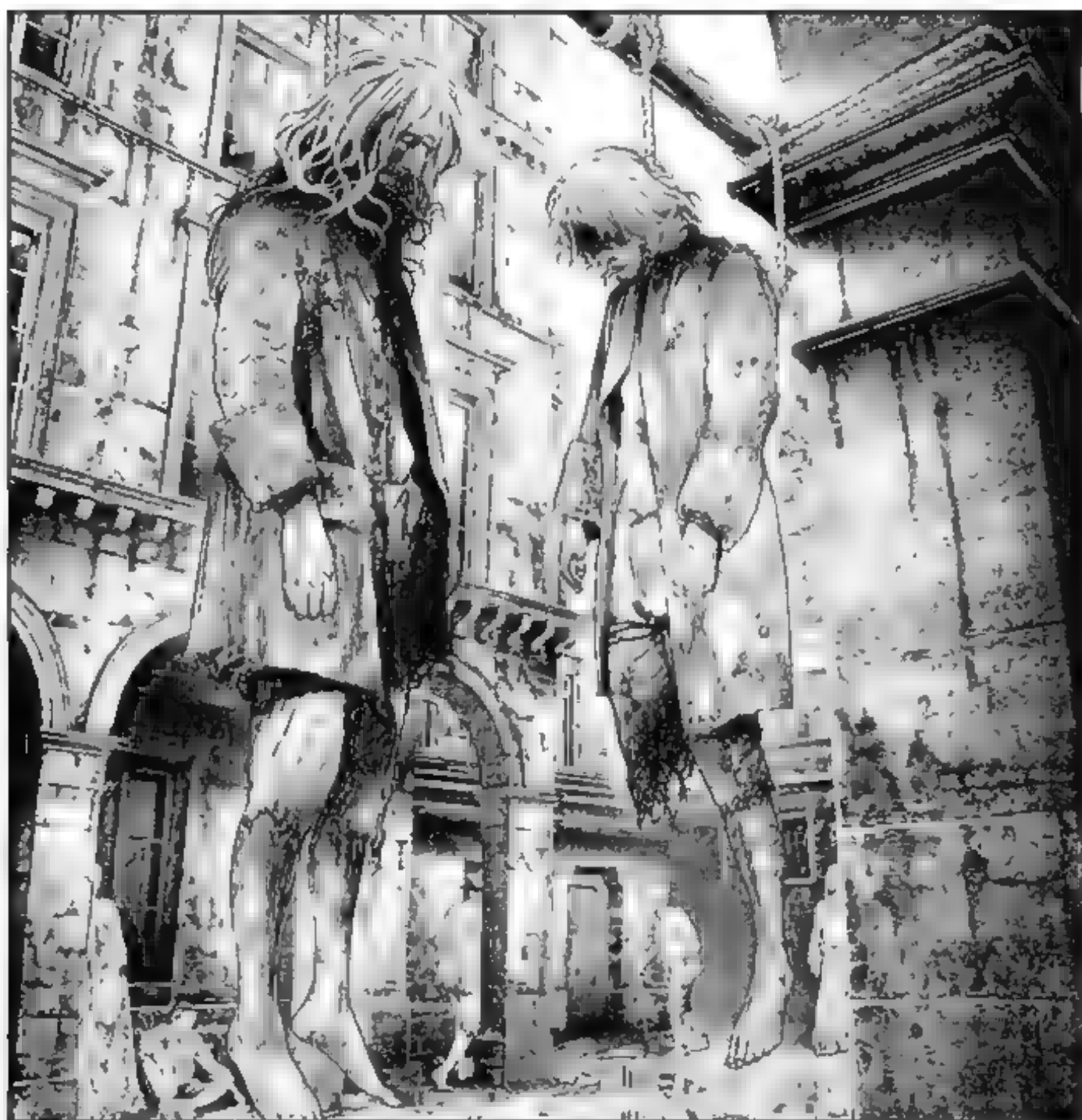
フランス  
パリ



セーヌ河左岸  
ジェンティリー教区ゴブラン通り  
貧民窟













チツなんだ  
オツさんも  
教会の人間かよ

うち  
教会に拾って  
もらってるん  
だけど

あんな所  
固っ苦しいばかりで  
飯もロクにくれねえし  
出てきちまった

そうだな  
やつと七年戦争が  
終って景気が  
良くなるかと  
思ったら

パンの値段は  
上がる一方だ  
……

もう直  
オーストリアから  
お輿し入れがある  
そうだ

そうすればきつと  
景気が良くなるはずだ  
心配ない!!!

うちの  
一コ上らしい  
けど……

ちよつとアイツ  
驚っ鼻じゃね?

ああ  
街中にピラが  
配られている


ハプスブルクの  
お姫様の事か  
……











剣<sup>けん</sup>を握<sup>にぎ</sup>ったら  
髪<sup>かみ</sup>をかきあげるのが  
面倒<sup>めんどう</sup>だ

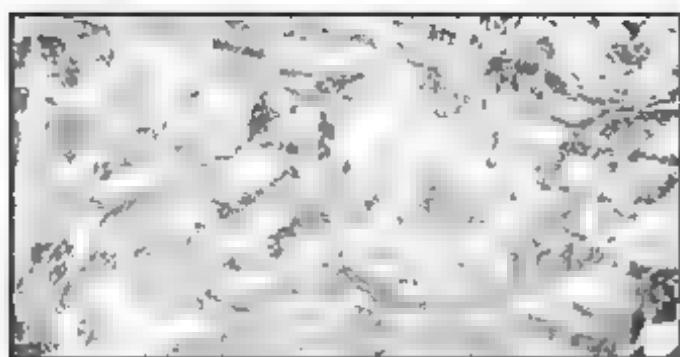
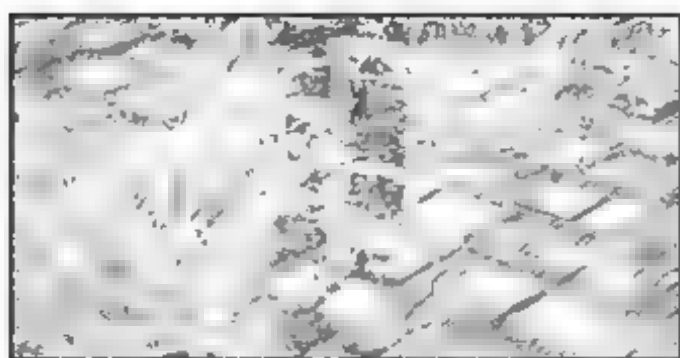
構<sup>かま</sup>わねえ  
バッサリ  
いってくれ



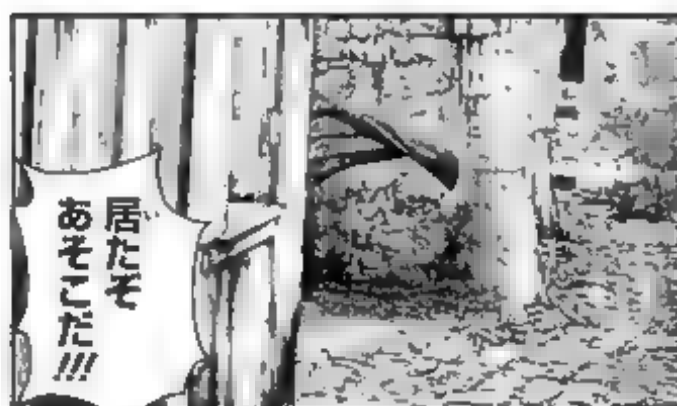


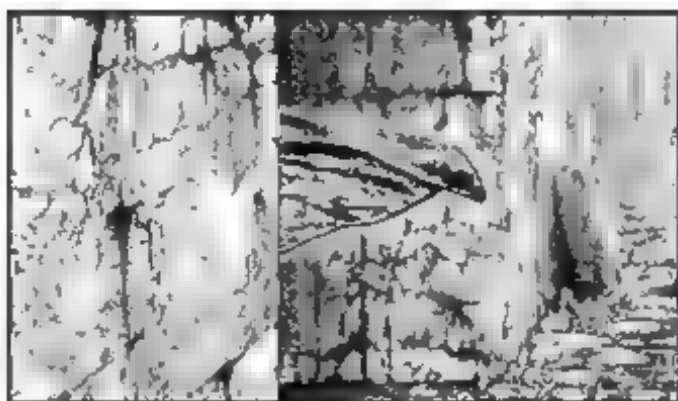








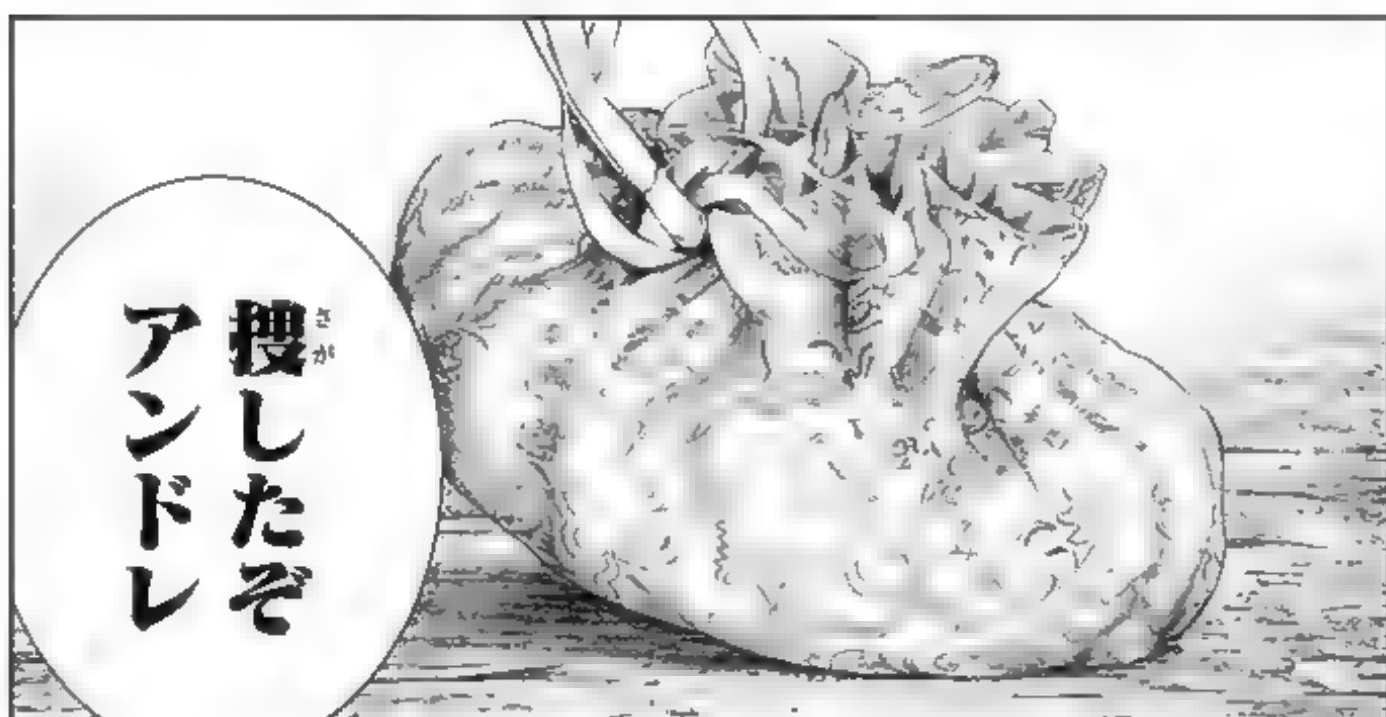











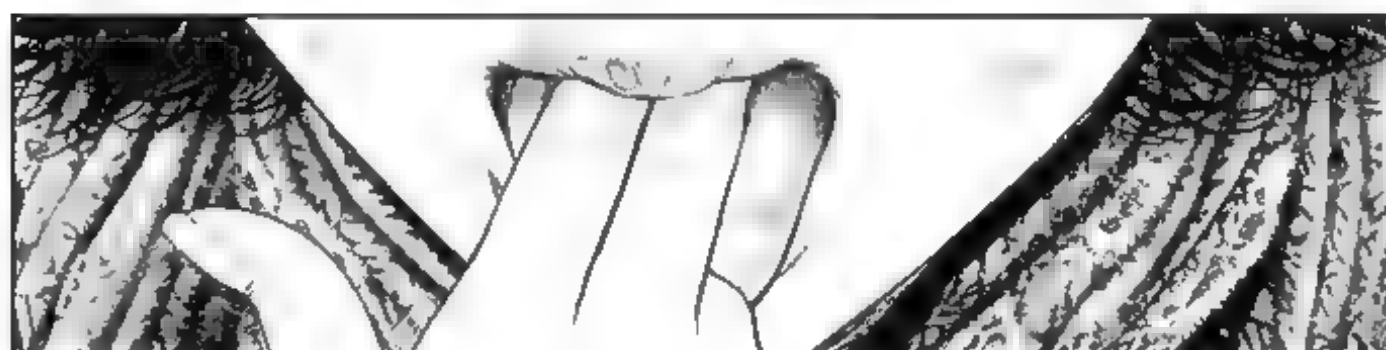




マリーはこの度  
ブレヴオテ・ド・ロテルとして  
オーストリアから来る  
姫君の聘題を任された

早速  
その金で身支度を整え  
マリーの従者として  
ベルサイユに出仕せよ!!!







ぞ  
—  
っ



おお  
大丈夫か…!!



汚らしい手で  
触んじゃねー!!!

!!!?



そんな汚ねえ手で  
うちにパンを  
食べさせたのか!?

今すぐ  
吐き出さねえと  
死にまう…!!!



こんな  
呪われた部屋には  
もう一時だって  
いらねえ……

ううう……  
気分が悪い  
そこをどけ……!!!



今  
懐に入れた  
物を出せ

さもなくば  
殺すぞ

……  
!!!







…相変らず  
馬鹿な奴だな



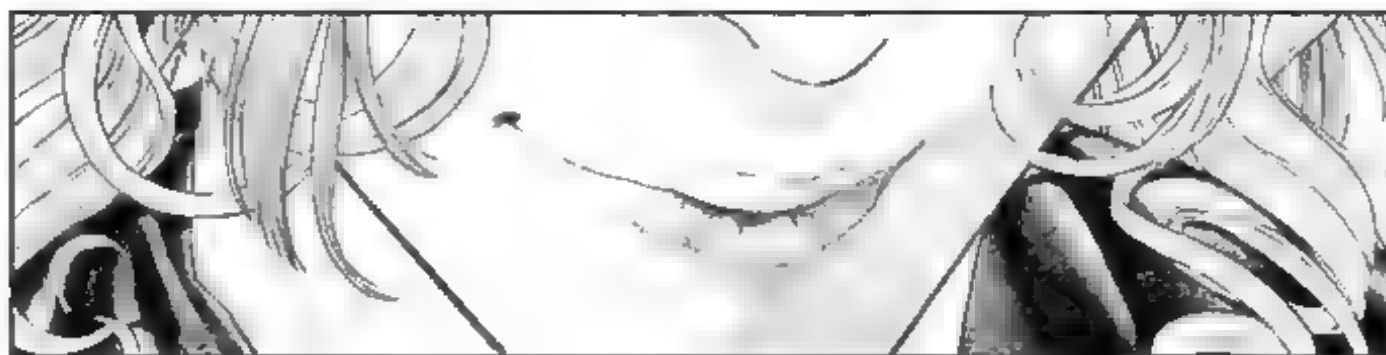
わかって  
おります…

でもこれは8年間  
お世話になった  
この街への  
銭でございます



マリー様 サンソン家の  
助手としての身支度は  
全て当時のまま  
保管してあります

あの時の気持ちのまま  
今日からでも  
お供させて頂きます!!









人間が  
己の肉体の欲望を  
抑える事は



かみ  
神への  
ぼうとく  
冒瀆なのだろう  
か……？



ひどく  
からだ  
震えて  
いますね

我が友  
ルイオーギニスト  
殿下

狩りの汗が  
風にあたり  
冷えたの  
でしょうか？



僕は  
怖い…

嫁いでくる  
花嫁の事を  
考えるだけで…

僕の下半身は  
熱く疼き  
はじけそうになって

それが  
どうしても  
抑えきれなくなって  
しまうんだ…



御安心  
下さい

私もそうして  
妻をめぐり  
2人の子供に  
恵まれたのです



殿下 それは  
至極健全な  
反応でございます

お前は  
自分の愛する女と  
結ばれたでは  
ないか

私は国の為に  
会った事もない  
女性と交わ合わ  
されるのだ!!

にも関わらず  
私の身体は女性を求め  
歡喜に震えている

まるで  
種づけの為に  
かけ合わされる  
牛馬のように!!!

殿下…!?

…私は  
決して  
屈しない

神が私に与えた  
運命に逆らって  
みせる…!!!







…  
殿下!!!



お前と出会って  
7年間

お前は  
一度たりとも  
自分から  
私に触れようと  
しなかった

身分に  
捉われるなど  
説いたお前が

私を  
怖れるのか  
……!!



私は今  
全ての既成概念を  
否定してみせる!!!



私は  
神などでは  
ない

禁忌をも犯す  
愚かな人間  
なのだ



私はこの度

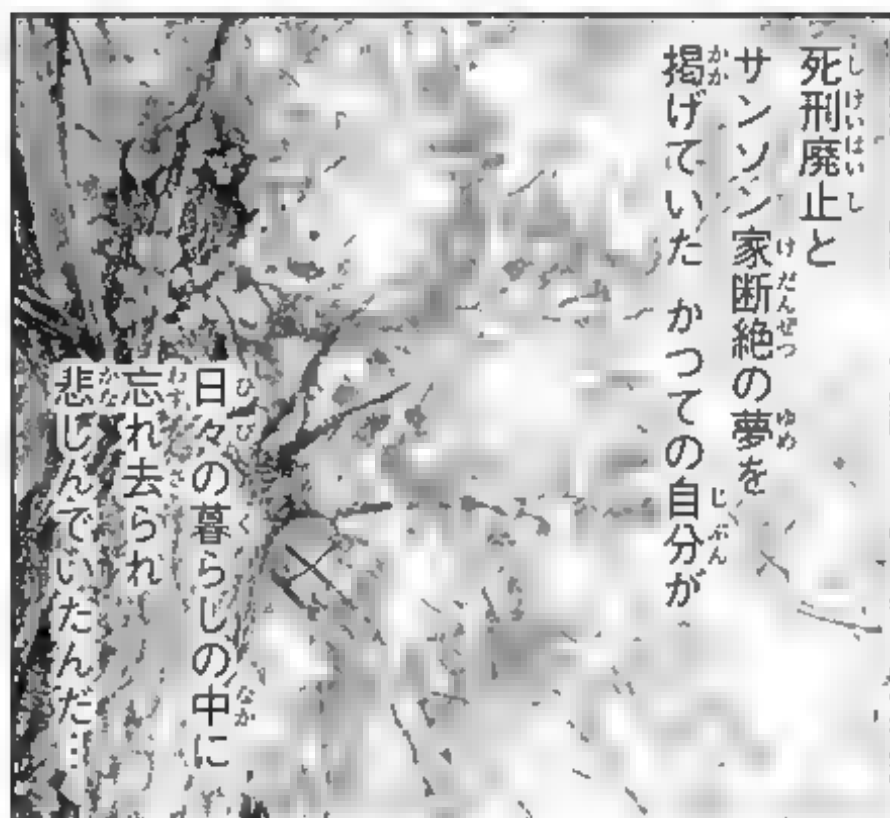
オーストリアから来る花嫁と

一切の性交渉を持たぬ事を誓い

私の代で王政を破壊する事を

宣言する

!!!!





寝室があなたの戦場ですよ  
アントニア:

初潮を迎えたばかりのあなたは  
瑞々しく実ったばかりのまだ  
誰にももぎとられていない果実

あなたに触れてみた  
ならない殿方など

この世にいるはずはありませんよ……

1770年4月20日  
ルイ-オーギュストとの  
挙式まで  
あと26日

A suivre dans le volume 8.

# イノサン

坂本眞一

〔出典〕

安達正勝

『死刑執行人サンソン』

(集英社新書)

※この作品は安達正勝著「死刑執行人サンソン」内の歴史的事実を  
坂本眞一による解釈で漫画化したものです。

〔作画協力〕

石塚サム

中村優児

神上郁真

真蔵修平

中本美咲

〔構成協力〕

田中里佳

〔時代考証協力〕

長田龍太

小野りか

(SPONGE)

〔デザイン〕

小林満

工藤亜希

(ジェニアロイド)

〔編集〕

網島圭介

三輪宏康





イノサン

7巻

坂本眞一

© 坂本眞一 2014, 2015

初版発行 2014 年

デジタル版発行 2015 年

発行所 集英社

<http://www.shueisha.co.jp>

この作品は、デジタル配信用に再編集を行ったものです。

本作品の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、改竄、公衆送信(インターネット上への掲載を含む)することは、法律で禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。

eBOOKで  
快適読書生活



<http://www.ebookjapan.jp>

---

Digital Distributor  
eBOOK Initiative Japan Co.,Ltd.  
<http://www.ebookjapan.jp>

---